

柳川調典筆記録

上中下全  
集書

慶應義塾  
圖書館  
藏書印

○日本朝鮮通用之儀符邪道

有之儀柳川豊前調興公儀

訃訖仕豊前北義相格作公事

出入始終之記録

△柳川調具公事記録上目録

序

一 朝鮮國信使來聘之次序并朝鮮治

征伐之紀事

二 一 柳川豊前の者を知り進可仕由  
中出の事

三 一 沖光の中に事の儀始る  
沙尋の事

四 一 公事の儀始る達 上関の事

五 一 一件の儀拙者存入の沙尋の儀  
大炊頭の後に事 作付の事

六 一 土井大炊頭の後に沙光の中に列座る拙者

七 一 豊前の事の儀沙尋の儀才の事

八 一 於に慶中一件の儀沙尋の儀成の中  
御奉仕事の儀

九 一 酒井備後の後に沙光の中に列座る  
方普先上京の儀沙尋の儀言上の  
次才の事

一〇 一 大炊頭の後に豊前の事の儀沙尋の儀

一一 一 大炊頭の後に拙者存入の儀豊前の事の儀

言紙沙尋 符之息言ト上なるヲ符ノ  
方長七七右為ノ口戸、此右奇の旨  
上之々ト申此作符の事

一 大炊政友の宅に家来古川大馬助、横田  
角左衛門、陣田九左衛門對列、此右奇の旨  
此作符の事一件為者トハ朝鮮使  
來ノ船、此右奇の旨此作符の事

一 方長七七右為の旨、奇の旨、海陸の事  
并一件、相対の者、此右奇の旨、  
作符の事

一 朝鮮使、此右奇の旨、  
疑補、此右奇の旨、  
使者、此右奇の旨、  
對列、并金山浦、此右奇の旨、  
平判、此右奇の旨、

一 儀太馬助、此右奇の旨、

一丈 一方長光并其弟之者大坂之取也  
中來山事

一丈 一方長光并杉村宗女柳川勘海由小江戸  
系之之事

一丈 大炊政友の對列の事  
此の事

一丈 一方長光と松尾七右衛門の對決の事  
大馬ゆの事

一丈九 一方長光と京儀杉村宗女との沙尋  
の事

一丈 杉村宗女と七右衛門の對決の事

一丈 御所丸の儀方長光の事

一丈三 御所丸の儀柳川勘海由の沙尋の事  
御所丸の儀

一丈四 御所丸の儀柳川勘海由の沙尋の事  
御所丸の儀

沙尋之事

一六 御寺中大炊頭及上沙寺の合一件に相  
知りし者、沙寺より出で尋之事

一六 朝鮮代來の船より先由の戻中老の  
使者河原より義中より

一七 大字、納書海東記御寺中上老  
之事

一八 豊安寺七老の御言旨の御寺中上老より

一九 寛永十二年二月十一日於

大猷院様御前、御直沙尋之事

并豊安寺の對決仕掛者理運之事

圓白上公事、為念仕之事

一一〇 方長寺柳川豊安寺流罪并七老の答

死罪に作付之事

一一一 大猷院様御前より出、御直之

沙後之事

一 泚志中 公法條書 泚志成事

一 泚志院 泚志并七志書 同公之者

一 豐方 泚志材是 泚志書 泚田志書 泚中事

一 文川 泚志書 泚志並志書 對列 泚志書 泚川調具公事 記錄上終

△ 柳川調具公事 記錄中目錄

一 酒井 泚志書 泚志並泚志書 泚志書 泚事

一 土井 泚志書 泚志並泚志書 泚志書 泚事

一 人僧 泚志書 泚志並泚志書 泚志書 泚事

一 泚志院 泚志書 泚志並泚志書 泚志書 泚事

一七 書梅後并拙者拙言旨儀瀆波書反の  
中上の事

一八 右同以之飲取反の中上の事

一九 松平伊豆書反の拙言旨若生の次中の上

二十 瀆波書反の系と他拙言旨若生作候

中上の事

二十一 宗瀆波書反の江戸系若生若生道中

之吉田作若生若生若生

一十二 宗瀆波宿儀御書中の相候の上

一十三 宗瀆波系若生候子若生若生

若生内道父子若生若生若生

若生若生若生若生若生若生

酒舟瀆波書反の中上の事

一十四 宗瀆波書反の若生若生若生

大飲取反の中上の事

一十五 宗瀆波の上意候中若生若生



大炊政友の指し波系と申上り

一六 宗瀆波配下と申上り申上り人数

并利敷儀酒井瀆波と申上り相伺

一七 寺井左衛門尉と申上り宗瀆波と申上り

一八 宗瀆波の指しと對面

一九 寺井左衛門尉と申上り宗瀆波の指し

對面

一六 宗瀆波と申上り申上り

一六 金地院の系と申上り

一七 寺中書梅役と申上り金地院と申上り

書付御意と申上り申上り宗瀆波

豊前守方長と申上り流内道七と申上り

宗瀆波の家財と申上り相渡

旨申伺之事

一六 書梅役僧と申上り申上り夜甘

相渡達と申上り申上り信使申上り

極子大炊殿後之御所より

海國山脈之成り事

一 此 上之書有一通也 殿中御所

之書事

一 此 條書一通抄言有一通也 殿中御所

之書事

一 此 之條書一本 殿中御所之書事

一 此 抄言中御所之書事

一 此 一件相渡山義胡群の中渡山書翰和文

次才之書事

一 此 御前御所の御儀并胡群等

並御所御所の書翰和文抄言等あり

一 此 抄言中御所の書事あり

一 此 土井大炊殿後之宅の抄言并血判仕の抄言

事

一 此 松平伊豆守殿の古川右馬守の御所

付り其意の後成法書付事

書役僧に持中御意中、一書寫二

大炊頭及の暇乞三系中書四

永平院法下入來編書僧相持り書付

持系五

右京都極書因防書及六心使者中入七

極書因防書及沙宅八編書九作集

此中書對面因防書及一〇同の書梅役

作付山首中渡一一

清雄佐右書の上浦新集一二列風

系一三名付事

右對列清西堂中清一四朝鮮一五公

書一六主の送父船一七中并衣冠送也

山原中送事一八

一件付願示一九作付山法文極浦松書及

相渡山事二〇

一

一

一

一

一

一

一

一

一 軍 朔辭ハ 考書簡ニ 納面シ 記實ス

隣好ク 心使シ 申ス 事

一 星 台田ニ 築太ク 田式ハ 海國柳川豊ニ 考

考ニ 示シ 末次平ニ 考 相渡ル 事

考ニ 示シ 事

一 軍三 考ニ 考ニ 町屋ニ 流ル 下ニ 朝辭ハ 道ニ

考ニ 示シ 事

一 軍三 關下ニ 流ル 松浦ニ 流ル 相渡ル 事

考ニ 示シ 事

一 軍四 考ニ 示シ 事

考ニ 示シ 事

一 軍五 信使ハ 同道ニ 江戸ニ 来リ 申ス 殿中

考ニ 示シ 事

一 軍六 揚部ニ 以テ 後ニ 流ル 事

考ニ 示シ 事

一 軍六 横田ニ 角ニ 爲シ 際田ニ 在リ 對列ス 事

一右与使に對列箇字若く者方の意に  
多形あり事

柳川潤貞公事 記録中終

柳川調貞公事 記録下目録 集書

一一件不相海より御老中に 考る書状

と案并の心より 扣る

一御老中に然る旨の心より案を 書之 扣る

一一件相海以後御老中に 然る旨の  
書付の心より事

一一件初に時より 御老中に 然る旨の 七ヶ  
系に書付の心より事

一豊前非道に儀十一ヶ系より

一物者類との心より豊前法を更なる作付の  
并考るの物言有付候より

一考る御老に様より方長を 公事 考る

一 空乘家之事

一 八 寬永元年信使渡海之時

公儀信使の事の下の山屏風の題の元の

者名の事

一 九 方長の朝鮮の渡海の宣慰使の

金結の事

一 十 寺の送史の船の儀の酒井の讚波の事

事の出の事

一 十一 方長の朝鮮の海國の其儀の

上の事の海井の讚波の事

出の事

一 十二 豊前の知事の石の儀の伊素の判の

大内の金の事の事の事

一 十三 義智の柳川の野の知事の判の

書の事の事

一 十四 一の件の集書の事

一 <sup>大</sup> 拙子妹豊前方の難の仕作様のお京

都津走中 の中上の松子并書状

扣事

一 <sup>大</sup> 一件相洲の後豊前家東 の中渡の

條書之事

一 <sup>大</sup> 寛永十二年二月廿一日 公儀の

若出作條書之事

一 <sup>大</sup> 寛永四年の日記按書の事

一 <sup>大</sup> 寛永十三年の唐坊法在書の物辨の

海國仕の付の戸の若出の時之首書の

事之事

△ 柳川調具公事 記録下終

一 柱を採り置きて其の柱を採り置きて其の柱を採り置きて

都府の古蹟を採り置きて其の柱を採り置きて其の柱を採り置きて

和の事

一 一併相傳へて其の柱を採り置きて其の柱を採り置きて

傳へて其の柱を採り置きて其の柱を採り置きて其の柱を採り置きて

一 寛永二年二月廿六日

國府の古蹟を採り置きて其の柱を採り置きて其の柱を採り置きて

一 寶永三年三月廿九日

○又此の心是れ故に我の心

人乃ち其の心は故に我の心

上は故に其の心は故に我の心

其の心は故に我の心

去る古今多し其の事一

愚長客下りて其の心は故に我の心

治と今も其の心は故に我の心

大槩其時乃國々の道々



序

○文非を以て是は亂る我は治るる  
人乃其分域の事とありて下りて  
上域と。一信と。一君と。一海す  
其外國家城河なり。天下を治る  
去古今多し其事一難そ其  
惡信密なり。一信と。一城と。一  
治と。一志と。一事と。一細と。  
大槩其時乃國々の道々々

家信に於て一かゝる友あり  
己の義法を世にせしむる對馬守  
宗義成賊臣柳川調興と惡逆小  
より國家の法令をわづらひ謀書を  
法をわづらひ之を非法の証をわづらひ  
根中其由來を尋ねりて天心  
年中祖文宗義調去土柳川  
下野調信の忠告ははくし勤切を

接するを心知りてあはれし事あり  
其の父又父宗義智の時不が信り  
其の其後家康公の時よりして  
朝鮮の和談をせしむ兩國和睦信使  
來聘日本の信也城作なり時宗義智  
於藩府義智事其國の事なり  
西國の方より其若し自今以後毎歳の  
奉勤御免なり其三年より一夜死

之、故、兼、所、公、由、家、の、仕、立、の、事、に、成、り、  
御、意、有、ら、る、其、上、御、加、増、の、事、に、成、り、  
之、後、其、時、に、御、執、権、中、多、上、其、後、公、  
來、山、書、状、に、追、ら、書、し、御、加、増、の、事、に、  
柳、川、好、孝、が、家、系、に、成、り、  
其、後、下、山、の、事、に、御、書、中、に、  
千、石、也、之、其、後、家、系、に、成、り、  
私、妹、と、婚、し、禮、に、成、り、  
其、後、故、

豊、前、の、對、列、の、相、果、の、事、に、  
山、増、大、家、の、忠、切、の、事、に、  
い、て、之、を、家、系、に、成、り、  
其、後、中、多、上、其、後、公、  
之、儀、を、之、方、に、成、り、  
儀、諸、事、の、事、に、  
調、興、の、事、に、  
台、仕、の、事、に、  
公、儀、の、事、に、

公來八拙之家是之正也山城乃事  
相勤山家宜之也之好學古教之道  
正以行其下少私之中入則驕府公先  
也之正公物也之寬永四丁卯年柳川  
調興教卒之千恩之忘君信之義之  
宵少之前後之而領武千石共之授  
公儀其勇之當洋領仕少之由吳城也  
中之立山有北法千下之既之委細

所執持土井大炊利勝中達山也

我亦十分尤之是食和年在為備經丹

播磨吉原中光國師南禪寺傳長龜也

何者之信也之此既法過思之被推

索作之之儀而之此房大馬師友師

或部少捕及既善身之之心此方之信

等之八也也知之押領中言之非道之

後之月松母之也之物又古之如量也

中國の事、故に中山の右に、  
後漢梅平万石、今、  
前、  
後、  
相背、  
作、

心、  
辛未二月十日、  
將監成、  
及、  
進、  
其、  
心、

間、百沙法、義、事、世、烟、法、力、多、之、在  
其、理、達、与、古、之、法、中、多、之、批、判、也、  
其、之、以、此、者、亦、の、知、る、世、理、を、中、に、  
好、味、の、扶、野、心、の、又、豊、前、と、一、味、因、心、  
軍、松、の、非、法、之、儀、中、之、公、儀、所、以、  
中、上、一、公、儀、の、古、之、知、り、返、り、事、下、の、  
松、之、法、家、中、の、者、た、も、其、礼、法、之、人、  
亦、も、あ、い、か、ら、よ、せ、ん、と、安、守、の、切、り、言、

て、之、の、由、之、久、事、出、來、の、法、之、好、  
為、ら、と、さ、り、よ、東、武、の、妻、由、中、上、之、文、の、  
豊、前、の、矣、儀、と、念、け、方、非、法、之、由、法、方、  
松、之、中、上、の、在、の、法、之、知、沙、等、入、  
世、間、の、理、の、風、流、有、り、と、其、の、理、運、  
松、之、思、食、一、年、理、非、之、所、決、以、及、  
是、河、の、雄、如、兔、角、之、事、所、以、之、時、  
事、之、以、在、寛、永、十、二、乙、亥、年、一、

大猷院様御代 上國理水  
分明之國名之豊守并儀相支  
寸之軍科之恒重之隨之或死服武流  
衆之治身物之令供通お知朝鮮之  
役義并領地之相替之儀守之令儀  
明君賢臣之御政道在之令儀  
當御代之令儀守之令儀守之令儀

大猷院様御代 上國理水

朝鮮國信使來聘次才之序

○天正十七己丑年 大閣典豊臣秀吉云

儀業御平治之後祖父對馬守宗  
義調文義我智儀業箱崎之在出之時  
大閣之儀業御平治之後祖父對馬守宗  
四海之民是也近大之治世故あり  
此時亦少之朝鮮國之是領使義守  
比得大其儀守之儀守之儀守之義智

別稱長乞并安乞柳川中野調信次  
名連朝鮮廣海海防於此也  
御意之執事申達也然大昔嘉吉年中  
自朝鮮國中叔舟日本也後非也後  
聘使久補步級也右類補好日本一統  
涉更之使難差後之由申也其物也  
達也背取引仕翌三年天正十八庚寅  
從朝鮮黃金澣之三使也差後招引  
大坂多洋禮仕也翌天正十九辛卯年  
黃金澣之三使涉難申下也其時義經  
大閣又申治也其信使日本  
一統之煩儀也述也事八未不足也  
且皇上也朝鮮國王自勇也後煩儀也  
述也其也也御意也朝鮮國王  
日本之幕下也其也其也朝鮮之道  
節也涉治也大明也征伐也



其時也といひてハ朝鮮國王清と大明と  
案内者ニ使往中 上之云々ハ使往中  
若遠背往之先朝鮮を征伐之ハ  
偽之獲長是柳川調信三使回道往朝  
鮮之始也云々右之使之妻由中達也  
案内者之事ハ案内朝鮮國分一書  
之往也身海國往也中上之使也  
大闢大也云々法立版多也也又義智  
僧三玄を召連朝鮮ハ渡海金山ハ  
志云々ハ國王來朝也云々也  
水月之往也大明案内者之儀也  
之由中切也也文祿元王辰年四月  
日本諸列朝鮮ハ法征伐之也  
大将宰相海前也秀家并發之計  
清政小西撫部守行長宗對馬守義智  
此三人を先也云々也

沙門連海海胡鮮沔征伐有之金山  
王都道多橫之者數不河之海國諸列之  
軍不悉討法之敗軍之者不教如之  
討也之王城之討之其大將之捕  
王子之捕之也平城府討入以府之  
之西之七日路首自唐箕子之  
胡鮮國王之治身之不之也箕子之  
胡鮮之元祖其古唐并石碑之  
有之由之文祿二癸巳年胡鮮大及  
雖伐大明加賜之清也大明之謝用  
梓餘一貫之者每人也日中相  
義智同道肥刻名護之也  
大閣之利法成中上之也每人之  
宜補不之也食和睦法先母之回三年  
甲午大明之揚志命沈志命并  
游擊將軍以三人之也

百上世の徳之義智揚帝命沈帝命  
二人を金山高田重遊擊を二人回送を  
到る言ふと仕の遊擊の儀、先づ其後、是而  
仕の使を金山に遣ふ、慶長元  
丙申年揚帝命沈帝命二人を  
同の儀、初談を信比時大明の勅を  
并衣冠好装束其外海邊に  
大関を日本國王の封一日中諸

將の衣冠を考へ、信職授し、  
大関大に御衣冠を初談御免天下  
大平比時と山海は、是の良山、  
遊習の信を出入り大明の勅を  
沈清王國の衣冠好装束、  
大明の幕下、  
上之儀、大関を、  
右の儀、沈清王國の大明の勅を

嘗てその民を由らむとて衣冠を棄  
てて其後揚言命沈む命し  
與人交結し其を信じて間諜信  
朝鮮之聘使を召連於古坂初夜城  
之戸上とて好む好む又軍陳之津田云  
有之其の其に市上云 大関又  
法將を伴符教下と士卒と云云  
全羅道を御討破る故國の久好

猛司判官をもちつけよの國を成す  
討てしりし去数万金羅道と者多  
其の山唐長三成成年八月十八日  
大関俄に薨御多好の物又 家康公  
御意に過り朝鮮の子流者に諸將  
軍を引日本に帰す其後兩國通用  
相結一故國の儀の取極む事之  
同九甲辰年朝鮮の松雲大所并

孫文或與人子為清和後之清和柳川  
中世調信中有驢河其以言之清和  
初辭公其人為清和後之清和上之清  
和妙之也且食上之中也以時義智病家  
有之山左柳川中野并獲長也  
每使公法京都之義智久也為

家康公休見之誠之義智久也為  
作符同十己巳年松雲羽額湯水信

同十二丁未年初辭公正使呂祐吉副使  
正廣還後丁好寬之三使之義智先  
家康公之御政道之實使之符也  
之義智疾 台德院極之御代法計也  
作符表極印戶子紙 台德院極法記  
中上以好之由之 作符山符印戶  
子紙法禮和伊歸也之時於臨府  
家康公之法禮和義智以三使之同也

改淨國以元和三丁巳年胡鮮公  
吳允諡朴梓事景稷之三使之  
秀忠公賀儀事上於休見之  
師禮仕公太之信使義成回  
寬永元甲子年胡鮮公西使  
副使姜弘重從事辛啓業之  
義成家光公賀儀事於東武  
中上公以信使亦義成回道仕公

○寬永八年未年二月十一日

一 暇日家乞柳川豊前中少公義成事  
事作今俄不領亦進進可仕中  
其後雖不領公之儀何事好  
以之公事一市國公若又中  
之八物少少而但其心自是  
可領千乃之義成案和之  
物大何義沙而扱少義成恨

之好少方、然、心を以て之を尊ぶ、  
其の定少、孰、大、誤、言、先、者、乃、自、今、  
以後、中、定、少、義、相、背、之、之、論、其、相、背、  
可、仕、之、旨、中、定、少、右、之、思、を、指、之、之、技、  
心、底、直、然、ト、才、の、比、外、之、人、之、道、不、  
少、義、之、お、違、之、ら、之、道、も、隔、心、之、  
其、方、乃、私、之、言、滿、心、仕、之、比、後、難、  
心、好、少、乃、私、之、言、滿、心、仕、之、比、後、難、  
平田好道、  
寛永十癸酉年

一月、廿日、乃、出、仕、也、城、仕、淨、宅、之、後、  
寺、中、之、井、大、炊、取、後、淨、井、雜、米、  
由、小、公、御、連、書、之、下、口、今、酒、井、  
宅、之、の、女、也、之、中、之、作、之、早、連、  
之、御、執、持、中、沙、之、公、之、御、  
沙、之、御、執、持、中、沙、之、公、之、御、

述以御執後元正始以以一件儀蓋  
取及以始大何發一因之水物更極  
岁序之達 上國之好然之等入  
以版何人中上之水夜達 上國若由  
水以我之方之思之物向中上

一 同十二日大物以反瀆以書反  
之上海外河海書反而之  
早達波何之書沙執後中沙列

物之之儀等以八其方一件之儀之達  
上國以書之御上法錄自母之對馬書  
一 件之事八 還法之流之始也  
上之之自之始也

寬永十一甲戌年

十月十九日於 殿中大臣及拙  
之始也八一件之儀對馬書始入之物



今不及相尋了乎上之由 上之意  
沙衣山有明白指宅上法華之有也  
至法華山

一 同女日大炊段反上素上之由也 松平伊豆守  
信綱河部豊后守忠秋柳生但馬  
加亂民初反掘或部少捕反何處法  
列有之由一併之由 法尋也 此の先年  
於河部守為下中上之少條季直の執權中

中上之由の何處の先の文田良之由の由國  
其後豊前守之由の由海者之由分て之由  
之由の由之由上之由 某儀對馬守對馬  
別の中之由之由其之意執心守振  
仕立るる史を法探して之由の由之由  
對馬守之由之由通之由 此大志文之由  
調信死を法法物之由之由世調法之由  
其之由之由 其故新之由之由之由之由

順密の取山信史早速對列立本給序の  
紙御執持申多上申分后頼奇男  
力を付く一書云信史分とをてめは  
又對馬守妹舞の所はのり  
家康公信上之意婚礼相調出  
た二ヶ條を對馬守自分計  
申分由申上へ全傳る所は  
信之大炊以反之心使者子向  
信之  
早速波何云山御執持申  
何茂山列座と豊中申分右  
之傳り申分申上へ  
二ヶ條之義甚傳る所は  
者之儀駭奇の事申上へ  
子之方と申分公儀向儀法  
大切申分好申分儀申上  
之り和物也公儀之物未見習

策ハ物ヲ正法ルニ爲事相勤ル爲子  
臣ノ爲事ヲ好拙ニ所執信元頼好  
以テ善惡一ノ中ニ事其紛分テ善ノ端ニ  
之ニ善ハ却少ニ善ノ之ニ命テ善中ニ之  
ふレシ以テ對列テ善惡ノ中ニ拙父義智  
差違中ニ善補ハ假死罪トテ之  
亦來ニ善ニ以テ子細有テ善ニ補テ善  
拙父拙之妹之年ニ結善ハ拙父義智  
計中善ハ皆者拙父調信父之善也  
之善ニ善中善ハ拙父之善今之恩也  
肖家康公之善上之善婚礼之調  
由中上ニ以テ淑淑ハ之善ニ諸之善  
縁絶善上之善之相調ハ儀ハ何者  
法好之善也上之善相初ハ之善ハ之  
之善一況又内ニ仁公命之善  
婚礼相調ハ中上之善也公儀

其調法之至何處法推察可也此山也  
惟得八御執權中允武德之田良  
中之其時大炊政友之治山八對馬友  
中分誠之尤之山清磨之對馬清國  
之風俗之又相似中之之清磨之友  
因室八家信之娘之山對馬山此  
信も大穰之教之有之申之信也

一同女九日大炊政友信之友友之友友

涉連書之下一件之山明白於殿中  
御尋之由之信之山

同十月朔日為涉禮之山城信之山  
執權中允之友信之友同之山

先之山公儀之權威之信之山胡群之

海海上京信之由豐之山上方長之山  
拙之其時何處之山上方長之山

仕少成全公儀、権威を借りし礼儀海  
不仕は其時礼曹より之を簡分し今先  
此の又豊方若年時若くは道者  
中より後由拍言旨仕直し之を同分者  
其時礼曹より簡分する拍言旨執由  
一況に成豊方公儀、儀より上より  
何處より且食の拍より上の儀を、  
余言より、（？）好中より其日並、大徳後

一  
江豆者後豊法者後但馬者後并町者  
或部少捕及或部少捕及何處沙也  
法列所より大なる礼曹より之を簡  
刑部卿法中、水花、法讀より之  
同三日大徳後下り者、（？）何處礼曹

一九  
より見たり成、其時豊方儀より之を書  
録ハ謀書より之を則執筆する者又平

判之彫以者凡只今對列之亦為好亦  
先年胡鮮信使事聘之時公儀之  
清近尚茂對列之傳書似亦判仕信  
使而之亦相清之信之某非義之執  
柄之諫之也均大之吾人亦不之也  
某物言有之上之亦自君信之信之也  
中之信之也子細之也清之也中之也

一 同之自之也改反之也使者之也之也

亦出之清執控中法列之也之也  
亦之也清執控中法列之也之也  
身之自之上之也之也何之也之也  
抑之也中之也之也之也之也之也  
中之也之也之也之也之也之也  
清執控中法列之也之也之也  
虛實相之也之也之也之也之也  
之也之也對列之也之也之也之也

家来七在馬の主人とる寄る旨 上意の  
由長治等の拙者上より大目人  
旨に作付は成斗私道に  
沙在の海每人に寄るに等し  
来由了上より大目好に拙者  
に寄るに等し

一 同日大炊取反の拙を成意古川

志馬ゆきお出に拙に成意の昂別来と  
信の寄河成に成意の對列に  
寄るに等し并七在馬の主人寄るに  
大炊取反家来横田角在の伊豆吉反  
家来も横田角在の主人對列  
寄るに等し對馬も寄るに等し  
相成の  
那亦一併成意に同胡辭に還る  
旨に成意の其子細に成意の  
上意の好るに等し若中成意の拙に  
軍者





後一併之儀相絶し由志古古志の是處に  
ゆく僧侶男女ありてす皆く心願し  
有らば紙少紙す仕也

一 同海自太炊取後古古川太馬少とて是等  
多治智の八は一併落着く同朝鮮に  
還り船沙苗少少少少少少少少少  
朝鮮の越浦好下少とて是日食少  
双方の使志一人宛方所海國の書  
少好極仕之由旨上之意之申す  
依之拙を七葉来馬本熱丸馬の上浦少又  
其少の内之者り又相法若後少白海  
但馬吉友或於少補友氏於少補友少  
少所也

一 同十二月朔日眼白家光太馬少とて是等  
多治智の八は一併落着く同朝鮮に  
還り船沙苗少少少少少少少少少  
朝鮮の越浦好下少とて是日食少  
双方の使志一人宛方所海國の書  
少好極仕之由旨上之意之申す  
依之拙を七葉来馬本熱丸馬の上浦少又  
其少の内之者り又相法若後少白海  
但馬吉友或於少補友氏於少補友少  
少所也

對馬島國中自古居之者方并金山浦  
之密以備其方之也其書狀古今持系然  
何處不判沙案之也其海之可達  
書狀相調何處自然沙自以時古馬必  
中上之自古來朝鮮之方後以使者  
之船入吹噓之也其宛如法之流之也若  
以吹噓之之也其地化入之也其  
其代分兩國中今密以中中上之也  
何處河相法之也其地化入之也其  
亦之也其書之封之實可然也其前亦之也  
書之下之實對馬島古來亦之其上之實  
双方之使者同船之也其流之也其可也  
其時地之也其中國之也其密以備其方之也  
橫田角在島對列之也其流之也其可也  
中達也

一有  
同日朝鮮表之也其書狀也執控中

一 然沙月則少缺後中上包沙平判  
之或馬本也其在金の大浦ゆ多又兩人  
力於朝鮮は若液の書状之案書  
在記之

况中於其地液海世  
柳川豊前之評編有之  
公事後之月双方  
液海為要の朝鮮人

仕の之古之通之  
下液山

宋對之

十二月二日 実名判

大浦控右馬の尉

寺井長右馬

一 <sup>右同</sup> 同日一紙の儀曾大浦ゆ多又中

胡鮮、長渡山、海之古川、古馬、中、同、乃、夜、  
大、飲、以、反、而、子、女、山、和、中、等、山、大、飲、以、反、而、山、和、乃、  
對、馬、古、反、而、中、於、國、元、宗、可、等、山、等、乃、  
中、於、當、化、家、中、由、山、和、乃、  
寬、永、十、二、乙、亥、年

一 二月六日大坂合戰、所、乘、此、方、長、是、  
并、其、餘、之、諸、軍、一、正、月、廿、八、日、大、坂、  
若、津、之、由、中、戰、也

一 同日、有、方、長、是、於、村、采、女、柳、川、地、點、  
亦、等、之、山、和、乃、未、看、此、解、回、之、送、也、  
此、非

一 同日、有、方、長、是、并、其、餘、之、諸、軍、  
宿、在、此、地、之、寺、移、中、也

一 同日、有、方、長、是、  
一、件、之、事、沙、洋、定、之、之、也、方、長、是、  
徐、親、之、村、村、采、女、柳、川、地、點、中、大、原

後所中杉村之元松尾氏之流澤ノモト  
在田連系集平山久之清松尾如左馬守方是  
并宗女之少相隨以胡辭之部上京  
法者初又考其方一味回心法志松尾  
七右馬之吳首元即首元之田連也  
相場部左馬村是如左馬之平山七右馬  
波多長左馬之松尾如左馬之末等之方  
三飲取及之方如左馬之沙轍松尾元  
信之方長左馬胡辭上京儀 公儀之  
松尾之信之方信之松尾七右馬之  
元信之時方長左馬之方如左馬之  
中者初之虚説也中上之申之申上事也  
一 同日所轍松尾之奇合之如左馬  
七右馬之方長左馬對決之方如左馬  
七右馬之沙轍松尾申上之八廣長十九  
年信使來聘之信有對馬守家

上言の時公儀をわすめ傳書を  
作り胡群の言流の胡群之を  
法の来を人等所割中事の子成  
沙府の子細の對馬者胡群の  
吹嘘の事平對馬者古川太馬少  
代の言を来り其時太馬少と上  
海吹嘘の中胡群の過來之船中  
の言を来り胡群の約條の事平の言  
對馬者并其の言を流し西の仕  
儀の對馬者書に對馬者平を言  
書に豊の言を言中書に事平  
の言を言る之は事平の言を  
通吹嘘の船中吹嘘の言を来り  
中の言を言る言を長年中對馬者  
家康公の言を上言法の中  
言に傳中其の言を上言の言

公儀をかすめ謀書結義為母と云ふ  
中上之義所相遠結自是公對  
中身並此領地之義所相之私を  
中立法をさす終仕今又方長を  
上京に成すこと慮安き事上馬白相  
遠之義の口を如何に備はぬ  
推察に終御決断正治の由右馬  
中上之

十九

御執権中村宗女に沙尋に  
方長を朝鮮上京の時多儀に儀  
方長を同の事波東洋の事宗女に  
拙子の方長を同の朝鮮流海  
信ハ海陸に此是事方長に法月對  
中身の相又方長を朝鮮流海上京  
之儀お所より朝鮮國王に并法  
振子或望表に儀或風俗に古思

或古今之義亦見之結紙中符方長也  
亦從海海方氏其法亦海氏判判  
崔判事 系山与山ハ東海之義子与山  
了之ッ方方長也字女一同之禮曹ハ  
東海之仕中中中中 方長也之山ハ  
拙僧於日本 長也之号と家ハ禮曹ハ  
海礼仕義全有之る浦ハ拙山ハ  
私儀ハ方長之海海長也ハ拙海海  
禮曹ハ海礼ハ儀ハ方長之海海ハ  
山ハ羽立日又判事 系山与山ハ方長也  
ハ禮曹ハ對礼ハ仕ハ私儀ハ禮曹ハ  
海禮ハ仕ハ中中ハ拙山又海礼結山浦  
ハ中中切山儀ハ之長也斗宴席  
有之ハ之後判事又系山与山ハ方長也  
書籍ハ其方姓名書裁ハ之方東海也  
之山与山ハ方長也之義ハ海山ハ  
之山与山ハ方長也之義ハ海山ハ



東海傳

一 <sup>サ</sup> 七女其の幼る中上は言長を上京の時

書契之箱より言長其の幼る

入京母は元好の室女中上は上京

の時書契之箱より言長

幼る幼る言長其の幼る

中上は若し禮持人有る時名實

中上は若し禮持人只して言長

七女其の中上の安業多者則禮持人言

言長其の幼る言長只今對列、女有る

室女中上の公儀に御捨使與人對列、

中上の時は一併に相かり言者禮持人

女其の幼る連、言長其の幼る言長、

言長其の幼る言長其の幼る言長、

七女其の幼る言長其の幼る言長、

言長其の幼る言長其の幼る言長、

中上は書箱と皮只とを以て法沙を撰  
中上は此時宗女七女を中上の女と  
御執権之法沙を以て虚事と云ふ此義を  
中上其方。分るは此書に非義は  
相知る先白と云ふ中上の誄書に宗女  
宗平彫り者をして只今此書に宗女と  
中上時七女を以て言ひ給ふ  
御執権元方長を以て法沙を撰り  
豊前并七女を中上の御宗女に儀

對馬守の方長を以て内談を撰り由  
多能く子細を以て法沙を撰り由  
上の御宗女に儀對馬守并宗女を以て  
拙僧を以て頼りて法沙を撰り由  
柳川宗平由法沙を撰り由好之を撰  
僧御宗女を以て好之を撰り由  
御執権中島宗平を以て好之を撰り由



戸、女、紙、山、竹、對、馬、与、妹、之、成、山、竹、對、馬、  
系、勤、之、序、同、道、往、回、時、亦、如、大、坂、之、女、  
之、之、刺、妹、之、成、麻、疹、亦、如、山、竹、大、坂、波、  
道、同、對、馬、与、斗、系、勤、往、回、對、馬、也、  
亦、如、尺、表、腫、如、亦、如、山、竹、公、儀、也、  
案、同、中、上、山、脈、之、下、京、都、亦、如、山、竹、  
時、道、中、日、坂、之、妹、亦、如、山、竹、對、馬、  
往、回、對、馬、与、京、都、之、道、同、回、山、竹、  
亦、如、山、竹、來、古、友、之、丸、之、也、先、紙、對、列、  
箇、守、居、之、者、古、方、中、考、之、濟、下、在、也、  
今、夜、也、言、之、山、竹、之、但、先、例、之、也、  
之、自、象、上、之、意、山、竹、中、考、之、右、對、馬、也、  
中、山、八、考、之、象、上、之、意、沙、下、丸、之、例、也、  
中、紙、之、考、者、古、考、之、道、之、往、之、也、  
中、山、其、後、之、和、七、年、八、月、古、考、之、也、  
對、列、之、考、者、古、考、之、道、也、

金友法より悉調之の同年に書  
七太夫の子下り御下丸に法より被る月  
金友の船仕の以通御下丸に法非  
法より書豊あり七太夫の月川結對  
其年一初来相調京於に書紙あり  
子下りの御執役申又法尋に  
御下丸に法より調物に入月何あり  
此より法執役申由中への國元は月恩深  
二十貫目餘の月をを費あり書あり  
依律あり書あり相調中に書あり京於持  
少り御下丸に月を法具買調物  
子下り金友の七太夫の月をあり書あり  
御下丸に儀法事あり被仕の以通に御  
群に儀に法に事法事あり書あり  
果次子に法に又御執役流あり書あり  
物云有に法にあり書あり



物言旨仕右有人、渡之中其後其  
中山來儀少及思心其乃在太  
物言旨仕右有人、對馬吉及威德院  
沙海下及物言旨多成其り河安地  
下仕と事好ゆ中ゆを皆者朝色訪  
物言旨多く其物言旨成は別儀  
母と其の時七太夫ゆハ其母と  
沙海己年、信使及延川ゆ

公儀を採謀書と仰り羽解、其ゆ  
信使早速本様仕、其謀書成お知  
り、我と對馬吉及好と成ゆは  
ゆ其ゆの物言旨多り其ゆ中ゆ  
ゆ方ゆ及甚傳るゆ其ゆ書如  
謀書成ゆ其ゆと其方計と  
我不好及、其ゆ中ゆ

御執後中、孫七ゆ其ゆ

漢書之市判、之方彫山中、清少、多經の  
 誰之、高宮之彫中、其、孫七、上、山、八、市判  
 彫中、の、義、ハ、所、後、之、所、之、口、外、の、七、志、書、の  
 中、之、所、彫中、の、安、元、彫中、の、日、を、元、  
 和、元、之、七、志、書、の、中、之、所、安、元、之、彫中、ハ  
 安、元、之、時、為、應、養、八、事、之、儀、經、之、  
 其、一、之、對、列、之、彫中、の、其、又、七、志、書、の  
 一、之、所、出、來、之、時、七、志、書、の、所、持、系、他  
 並、廢、之、也、又、力、應、養、事、經、二、指、經、之、  
 某、大、一、市判、彫中、の、均、大、七、志、書、の、為、也、  
 子、細、之、儀、也、力、彫中、の、儀、ハ、安、元、中、の、  
 我、亦、依、朔、夕、均、老、之、宅、也、出、入、仕、向、也、  
 同、安、元、之、儀、也、所、在、何、也、七、志、書、の、中、之、  
 治、中、之、儀、也、

表符ニシテ友

一、同、三月、之、日、清、純、後、中、酒、井、瀧、誠、後、  
 所、清、安、公、之、書、也、并、七、志、書、の、安、元、



文の奇山

一 旨

一回三日之飲取後瀆此書及少可分次  
使者下明日和至伊豆書及取書合  
少多持山有明日辰刻持完の書  
中の中

一 旨

一回三日辰刻伊豆書及取書合  
一回七日御執持中今在書の

書契所書山義上水罪科之

詳、極子下上今在書の中上之書籍

所替山義某全之存之の書 公儀

向之儀、七在書の書、持也

山義、子之在書の書、先年七在書の書

之在書の書、今在書の書、信使、公儀

書籍、密に反替、之在書の書、中の中

之在書の書、見仕、大切、書籍、反

中の中、儀、大、逆、之、書、用、之、書

七在焉又中其紀年好豐安京並一好  
生之時胡辭信使事聘公儀之乃云  
書翰兩語同之乃之仕以好大難奴暫  
をすくし以中の也 城之良市原中  
大名領者沙入交之時好者乃好者  
内之与密之陪之何ハ書翰を所各別  
書を乃之ハ今乃の中を通之仕ハ何  
活ク若面ハ中と中ハ之物ハ之時障子

紙之紙紙中ハ之ハ書契書替紙ハ  
物ハ好知中ハ

一五

一 同八月御執役中ハ物取反取者合  
物之ハ好知中ハ長包ハ之ハ一併ハ物  
ハ者之選ハ之ハ好知御執役中ハ今右  
沙尋ハ好知御執役中ハ長包ハ之ハ一併ハ物  
好知由誰ハ其ハ好知中ハ其ハ好知ハ  
今右好知中ハ其ハ好知中ハ其ハ好知ハ

一 分七本... 法... 豊... 仕海... 命... 其... 法... 對列... 同日先... 若... 子... 大...

一 同日先... 若... 子... 大... 豊... 仕海... 命... 其... 法... 對列... 同日先... 若... 子... 大...

一 同日先... 若... 子... 大... 豊... 仕海... 命... 其... 法... 對列... 同日先... 若... 子... 大...

一六七 右馬印、力持、右、欽、以、及、沙、室、一、考、之、以、  
同日、大、地、以、及、瀨、波、寺、及、右、馬、の、寺、及、右、馬、  
連、書、之、下、胡、群、の、條、お、定、の、物、契、約、之、

書、物、の、是、之、中、中、來、の、條、之、 家、康、公、

一 胡、群、和、陸、之、始、和、雲、之、所、來、聘、為、禮、  
お、所、得、國、之、時、右、縣、浦、柳、川、に、於、て、之、

お、流、の、大、字、之、物、書、一、紙、曰、之、物、書、を、  
洋、之、之、り、書、法、の、書、也、一、冊、并、海、軍、記、

一 冊、大、之、方、長、之、の、お、有、之、の、寺、古、川、

右、馬、印、法、而、之、指、系、法、也、也、 城、法、

執、持、中、之、考、出、之、也、

一六七 同、日、右、馬、印、及、瀨、波、寺、及、右、馬、連、書、者、

以下、豊、前、指、言、旨、并、古、寺、の、指、言、旨、右、三、  
代、之、考、之、之、由、之、條、下、の、考、分、右、古、川、

右、馬、印、の、考、也、城、法、沙、執、持、中、之、考、之、

實、永、正、十、五、年、

○寛永十二元年

三月十日於 御前豊後より十二夜  
對決ひうふて對馬者として立力る作  
但對決之時を後 御前七回申立力  
上作別一二回預先臺酒并濟利  
幾多水色御出の

<sup>廿九</sup> 御直御尋く象く  
一十九年先之信使之時を對馬も

若輩のふと十二年先之信使の時を  
對馬者心つて山時ふと好の事は  
名指儀とて或は御返の

拙子中上ひハ胡舞之書籍ハ信使  
出仕の時持来仕作御返向ハ御  
執務元信使宿願とて或は或の後  
此よりハ拙子之書面より下御返

御前也

右同

一 百番の書并中判今度豊前元  
出しは是れ力御極子と云成御儀  
沙詔極子と云度書并判考前  
若出しは侍者私に法事  
之より日前より御極有之上  
之好通りなり且食ふ御極  
并七右馬の虚事と云者に成  
る御極多し書并今度公  
御極

右同

一 此の事結成り心志好む御  
極子と云成

右同

一 信使の時々進物若くは儀之類  
は此の對馬も進物若くは儀之類

或御極

御後之通り進物若くは別  
殿中極子と見しは進上之儀  
あり信成り書并御極

一 殿中七奉の注文をさうくしきりて  
中より信使 御目見進地回  
時より御前持参の旨を  
事より御前信使社之書面より  
下より御前儀も書面より  
御前之書面より 御前之書面より  
御前之書面より

右同

一 御前丸胡舞の儀其使

對馬田之者より御前儀何より  
御前之書面より 御前之書面より

一 殿中御前儀の儀其使  
古及之儀も御前儀何より

右同

一 殿中御前儀の儀其使  
女九年先く信使此礼之儀親  
豊前守持参の旨を御前儀何より  
年より信使此禮相廻りより  
御前儀何より 御前儀何より

或御説の事は後平中御  
の御事其旨於京都府内  
長門内にも來りて御説  
通りの法は中にも三良  
御下使の事申すに如何  
儀も御公儀に御説の事  
是より守幼るる事と云  
御事其旨通の御事御事  
を圖る者有別る御公儀  
同左諸事御公儀に如何  
豊前守の御事御事御事  
其旨の御事御事御事  
右に御事御事御事御事  
成御説の御事御事御事

右同

右に御事御事御事御事  
成御説の御事御事御事  
書翰の儀も御事御事御事  
御事御事御事御事御事





たとい我末とありありなるもの

對 御公儀のしるしをいふ

仕と申すは、さきより申す所の

法意の儀に、度々申す所、始と申

路馬入の

右同

一 古對馬守書翰所習の儀、此中

申す儀、いふ所、御後

朝群一乳の後、通に申す

御公儀和睦の儀、お子親の儀

一 河柳川平野父子の事、お

子、後御公儀、お申す所、

御群、万事、お申す所、

其つゝ、お申す所、

戸端、お申す所、

良法、お申す所、

法、お申す所、

當考ふて胡鮮之官位仕居る  
日本胡鮮之間をも法くらひ此法  
之儀法を好む物も親をたしむ  
大切之儀仕る浦の親豊之儀法  
羨みず疑ひ七た其の親考ふて法を  
中上ハ子もあふ事(せむ)たしむ  
親より之を長るる文法者たす  
度法より中上もたしむ中より上も

一 音

一 音

教、目之者此道之儀法を對馬也  
一とすて之好むはひとくも好む  
之儀法を好む  
御法を先にも好む併豊も法物も  
高法も好む中少くも諸大若も好む  
八相遠の其子細い法執権元之好む  
何れも法執権元は好む兼も別其の  
名連も好む其の法も好む

主候にわづらひ達とせし所は  
内印大儀指し申す並に  
しりともこの法は玉許  
尋ね候也。いとも此味法  
尋ね候。前より少く此味法  
御公儀威とかり其者より  
法より又の教害法者多し  
一 法は是れ非也。我候  
一 法は是れ非也。我候  
玉中候。好むる志は  
法より少く其の上は  
法は是れ非也。我候  
一 法は是れ非也。我候  
右に候。法は是れ非也。我候



孝好道 中上又信使儀法  
中上

掃部友長 治平定年 中上者

世心許 治平早 中上

御深通 中上 治平 中上

對馬吉住 中上 治平 中上

中上 治平 中上

三 同日 治平 中上

流罪 治平 中上

中上 治平

右 同日 治平 中上

津恒 治平 中上

中上 治平

右 同日 治平 中上

死罪 治平 中上

表 同日 治平 中上

一 女史

一 同日大始既為瀆誤後伊豆吉反

一 今法者暑不明日辰刻也城

一 可成之由之經下也

一 同日官日御執權中一公名書之也

一 城結之於御前

一 御直之御設之純

一 今夜儀成之御字變之信

一 御直之成之因之也對馬母供

一 通之也其之上也

一 中之也作之也

一 身對馬成之也

一 以年之也七十二年

一 不年之時之也

一 結之也烟法之也

一 前之也

今宵ハ成河沖の筆末に烟法  
紙何處有之ハ對馬の爲教元の日々  
ハ胡群之成連下下之書翰等  
儀沙案内之百紙之致言之  
隨分胡群成之他の百等之  
成之百之成之

三十一

同日御執持中ハ古川右馬助平  
將監人ハ一紙之條目之成  
ハ紙之執對馬右中達條目之  
下中守中長治流

頁

- 一 河川内通死罪之者ハ守事守男
- 一 子ハ其の爲同罪ハ取賊之致願下
- 一 取の事ハ守事
- 一 取之七た其の男子ハ其死罪の者ハ守
- 一 取賊之致ハ守事



一宗瀆儀人をして是に治すべし

一宗事守男子を以て對馬守に成すべし

一宗事守國不仕其不仕の事

一柳川を以て對馬守に成すべし

一其不仕の事

一方長老自分と賊實被國不仕

一其不仕の事

一後寺院自分と賊實被國不仕

一其不仕の事

一其不仕の事

寛永十二年

三月十日

江豆

瀆儀

大炊

宗對馬守

右目

一 同日右馬少將並有人大に鎌田平見  
仕済執権中、中上の對馬寺に鎌田  
條目と同宗瀆波寺、嫡子に成代者  
家賦も又國下、仕、式、尋、中、上、の  
河原五路の嫡子に成代、母、之、國下  
儀、只、瀆波寺家賦、之、成、代、也  
一 同日流芳院事、秋田に流罪に成代  
分、六、合、兵、庫、政、に、成、代、也

三三

右目

一 即日右馬少將並有人大に鎌田平見  
急進、政、事、作、成、に、成、代、也、中、上、を  
右川右馬少平田將監と、大、秋、政、成、代、也  
横田格、左、の、江、豆、寺、及、大、乘、山、藤、田、九、左、の  
い、あ、人、に、多、相、法、大、に、成、代、也、江、波、の  
一 同日右馬少將並有人大に鎌田平見  
右、右、馬、の、あ、人、物、を、宿、下、に、成、代、也、  
對、列、に、成、代、也、右、下、に、夜、國、下

三三



○寛永十二年

一 四月十日 酒井瀨波吉友上 来上 上上 德上  
○ 高木公事上 高木御執持中上 山崎上

一 件 高木有上 朝鮮上 德是上 船上 高木

一 重兵上 高木有上 德是上 船上 高木

一 船面上 高木有上 德是上 船上 高木

一 船面上 高木有上 德是上 船上 高木

一 折節馬上 高木有上 德是上 船上 高木

柳川調貞公事記録中

一 國上 高木有上 德是上 船上 高木  
一 柳上 高木有上 德是上 船上 高木  
一 高木有上 德是上 船上 高木  
一 高木有上 德是上 船上 高木  
一 高木有上 德是上 船上 高木

崔判事の事相海の被領事、下を  
私の中、少の被領事、此の事、  
の領事、由中上、  
流の旨、大飲、  
極、

物、領地、  
中、上、野、  
元、来、物、

右、京都、  
と、  
悔、  
波、  
沙、  
抄、  
私、  
う、



之能少くは是言

○先日朝鮮より信使來聘伝知

信使の如く是等書翰等より

申付是等書翰役人より

是等書翰の由申上る事讀後

之信の五山中の事未だ

之信の如く先の如く是等

の事沙拓詰り好む拙

御執権申上る事信等

入の事申上る事有る事

之信の事方是等如く

誰と云ふ事不可有る事

世辰沙執権申上る事

書翰役人申上る事

又申上る事是等

是等事申上る事





千石之爰昨日瀆波吉反の中上の通  
大炊政友の中入の好く其の僅に千石の  
事の中地方の上信守の中及の  
河原波お候との山道の中入の幸の  
子の中入大の因合全書信守の中十  
談の中候との山道の中

一 同日大信正天海の日光の紙守  
東叡山に乘上の上信正の中上の拙志

一 一併に儀守の中 東照大権現、乘詣の  
信守由急との立敷有との好との月の中  
上右の中乗乗詣の中又の折敷の中飛云の  
者の中急信守の中 上上流守の中舟の中  
爰の中上上の中守の中信守の中乘詣の中  
信守の中信守の中 悔急の中守の中信守の中  
信守の中信守の中 誠守の中威守の中舟の中  
守別乗の中 公用の中障の中俾守の中

義、母之、山、公用、相勤、山、後、集、詣、結、一  
然、之、法、也、言、也

一 同、十、百、年、伊、掃、部、以、及、之、宅、未、安、の、心  
瀨、波、書、反、大、炊、以、及、の、中、進、の、條、に、中  
上、の、書、を、掃、部、以、及、に、給、ひ、の、權、威、書、反、大、炊、以、及、  
の、家、達、に、上、の、書、を、之、に、定、り、給、ひ、給、ひ、給、出、  
の、  
及、之、の、中、取、寄、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
一 同、十、百、年、の、條、に、城、之、旨、を、上、の、條、に、及、の、心、

を、心、に、給、下、の、心、分、波、の、城、之、旨、を、上、の、條、に、及、  
瀨、波、書、反、伊、豆、守、反、に、給、寄、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
條、に、及、の、心、達、上、の、條、に、及、の、心、第、一、海、  
之、條、に、及、の、心、胡、鮮、之、條、に、及、の、心、一、件、  
之、條、に、及、の、心、役、儀、并、却、り、安、法、に、  
伊、豆、の、事、下、の、條、に、及、の、心、上、の、條、に、及、  
馬、薙、之、者、母、之、心、方、之、法、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

其文之早也。其批注、涉執控中、  
涉若等之由。其批注、涉執控中、  
常之涉海之批注、涉執控中、  
批注、涉執控中、  
先例、涉執控中、  
書之早也。其批注、涉執控中、  
子之借之也。其批注、涉執控中、

涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、  
涉執控中、

主簿八細之為馬獲之者得國  
之書之方古之書狀一覽ふらふ  
瀨波古友之流の流の流の流の流  
古之好古古之書狀古之來古之  
信之書狀古之流古之古之古之  
御城古之流古之流古之流古之  
一 同日為少礼之 城古 殿中  
書狀古之流古之流古之流古之  
流古之流古之流古之流古之流

一 古

誠之正友流之流之流之流之流  
海國之時古之流古之流古之流  
一 同日於殿中令地院然自中入

一六

一 同日於殿中令地院然自中入  
一 信之書狀古之流古之流古之流  
作之書狀古之流古之流古之流  
世之書狀古之流古之流古之流  
山之信使之事又公用之儀  
書之書狀古之流古之流古之流

茂之なる五山中、る文才有る人  
書翰汲汲、其の如くは、  
其の如く、日本朝鮮兩國、  
物とす、清くも、  
之、沙、其、有、  
五山、  
信ら、  
日十八日、

先、  
身、  
書、  
其、  
の、  
其、  
前、

法厚無難忘哉。の徳に物言有徳法  
執權中、乃と大志を志を破る度  
其好の尤一云と義中、上らも無  
忘却仕業、世に好大私力有り、  
この好の價、此書有徳の法、  
中、今と通る、度、上、意、の、  
と、好、の、好、大、物、云、有、と、義、中、  
句、端、法、執、權、中、  
中、上、六、は、時、良、相、繼、る、  
奉、云、中、上、六、及、其、好、の、  
好、大、の、好、の、時、の、好、の、  
又、胡、鮮、信、使、海、三、年、の、  
中、年、及、の、好、の、  
其、好、の、好、の、  
一、八

一回、女、二、百、大、飲、部、及、の、宅、  
改、義、と、中、上、六、  
介、度、馬、蘇、云、者、  
海、の、法、智、書、梅、を

中山の事業に彼等をして信使に  
用ひ給ひ流し彼人母を以て中  
久秋中にて名書と云ふ又  
下野人として多下山に役人  
対列に  
招信結成私目前に為す  
通用に為する沙執持申す  
草押の去秋改定し給ひ書  
指役成  
尤も事の急用を人柄 公儀

沙吹味をうすお海の中  
物言首能く名を中上  
の物と好む法眼に下  
又且給ひ一併に  
お海に彼及延月  
殊言をさすは  
柳心と儀をす  
法言の急用を

信者之八對馬書了有用候子又  
 豊安、貝願、願、信、志、六、書、外、為、對、馬、書  
 下人、之、御、美、候、と、好、く、有、く、る、補、給  
 只對馬書中、之、隨、ひ、下、候、由、と、言、ふ、に  
 中、之、極、く、申、看、出、雙、方、大、人、之、及、  
 振、と、多、く、大、好、申、出、申、中、之、申、候、事、  
 を、好、申、申、出、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 其、時、地、と、申、出、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 之、作、分、之、式、之、度、豊、安、申、出、申、候、事、  
 之、申、上、大、キ、申、出、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 諸、人、之、涉、教、戒、之、意、誠、之、及、申、候、事、  
 此、事、照、宣、台、徳、院、様、申、出、申、候、事、  
 三代、之、御、道、心、浦、諸、氏、安、穩、と、申、候、事、  
 之、及、と、善、く、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 何、れ、之、御、道、心、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 之、御、道、心、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 又、之、御、道、心、申、候、事、申、候、事、申、候、事、  
 又、之、御、道、心、申、候、事、申、候、事、申、候、事、



并物之方... 詳... 得... 意... 收...

文... 山

一九  
五月廿七日... 朔... 松... 平... 江... 豆... 書... 辰... 山... 電... 糸

物... 旨... 也... 差... 刻... 子... 多... 子... 瑞... 兒... 物... 云... 多...

既... 一... 既... 宜... 山... 假... 令... 之... 力... 以... 儀... 子... 列... 矣

之... 多... 山... 子... 之... 之... 个... 孤... 上... 廟... 室... 山... 子... 如

以... 既... 達... 上... 山... 子... 如... 有... 子... 之... 物... 也... 夫

物... 之... 妙... 山... 相... 替... 為... 多... 之... 子... 補... 山... 子... 以... 既

大... 物... 既... 後... 讀... 收... 書... 辰... 山... 子... 連... 山... 子... 自... 山... 以... 既

作... 竹... 也... 孤... 上... 欲... 既... 後... 山... 子... 乘... 山... 子... 入... 山... 以... 既

通... 今... 夜... 之... 一... 行... 山... 子... 能... 山... 子... 作... 竹... 和... 竹... 山... 以... 既

實... 儀... 三... 山... 背... 山... 子... 物... 云... 旨... 山... 子... 之... 山... 以... 既

涉... 一... 覽... 山... 子... 之... 山... 子... 之... 山... 子... 涉... 山... 子... 差... 山... 子... 意... 山... 子... 賴

故... 山... 子... 以... 山... 子... 之... 山... 子... 既... 却... 山... 子... 涉... 山... 子... 發... 山... 子... 之... 山... 子... 意... 山... 子... 賴

用... 大... 和... 為... 宜... 加... 山... 子... 既... 山... 子... 之... 山... 子... 判... 山... 子... 形... 山... 子... 體... 山... 子... 意... 山... 子... 賴

涉... 執... 山... 子... 中... 山... 子... 差... 山... 子... 之... 山... 子... 度... 山... 子... 既... 山... 子... 上... 山... 子... 欲... 山... 子... 既... 山... 子... 意... 山... 子... 賴

物云旨と沙漬とが文言事母と沙漬の  
以物云旨と之ありとの如く他人疑ふ  
以物云旨と沙漬と傳へて既と浦好の  
又と沙漬ハ常ニ之如ク有る時ハ同身  
一人おかり他人の如くハ条人目身一人  
之如く傳へて物云旨と沙漬ハ同身一人  
傳へハサハ物云旨と沙漬ハ同身一人  
之くの事ハ之如く傳へて沙漬ハ先  
傳へて沙漬ハ後と傳へて沙漬ハ後

伊豆書版の中淡ゆるるる事ハ之くの如く也

一 同身九日瀆波書版沙電、条ゆるるる如く  
物云旨と沙漬ハ同身一人と云ふ瀆波書版  
と沙漬ハ之如く傳へて沙漬ハ先  
傳へて沙漬ハ後と傳へて沙漬ハ後  
沙漬ハ先と傳へて沙漬ハ後と傳へて  
沙漬ハ先と傳へて沙漬ハ後と傳へて  
沙漬ハ先と傳へて沙漬ハ後と傳へて  
沙漬ハ先と傳へて沙漬ハ後と傳へて

朝鮮之先河の事あり作符重山の  
揆使と多下之友の事然思ふ事あり彼  
沙轍橋中、之れ道に如く物と申すは  
如く之の山氏と申すは式讀彼と友と  
作は、日隈お極くあり事と決る  
の事と申す。御目智とん孰紫見分  
と作符とく、と決る、對列見分と作符  
とく、極く申す、如く物と申すは、  
國元白く、形稀、お來多と申す、事あり、宗  
讀彼と申す、出船、用意、作、家、評  
未着、之、白、限、申、追、分、の、申、未、以、後、之、  
く、宿、不、申、く、往、來、讀、彼、と、友、と、作、の、ハ  
山、日、前、屋、浦、と、申、も、他、不、く、申、も、と、申、若  
而、之、申、利、儀、の、事、致、之、事、の、事、作、符、の  
是、又、同、色、七、本、事、の、義、と、申、死、罷、と、の、疑  
山、日、物、の、事、と、申、ハ、何、と、申、申、矣、誠、の、事、

國元白く、形稀、お來多と申す、事あり、宗  
讀彼と申す、出船、用意、作、家、評  
未着、之、白、限、申、追、分、の、申、未、以、後、之、  
く、宿、不、申、く、往、來、讀、彼、と、友、と、作、の、ハ  
山、日、前、屋、浦、と、申、も、他、不、く、申、も、と、申、若  
而、之、申、利、儀、の、事、致、之、事、の、事、作、符、の  
是、又、同、色、七、本、事、の、義、と、申、死、罷、と、の、疑  
山、日、物、の、事、と、申、ハ、何、と、申、申、矣、誠、の、事、

法如のなる子連作の通に母と評は  
敏く如と申さる者も心入書面地  
若く母科の由申上る者も殊に  
申同との好の瀆後及後修ハ清  
推量の多しを比指支ト上ハ修未  
知念法より方心對列ハ之も申比好  
申の方指田角地修の山標田角地修  
大炊友修是れ多く事同申入の修修  
一版の之を由は修修の

一上

一六月二日一箇の中、宗瀆後書、一之波

一上

一素の之の由申事、身事来言田山修の

一上

一道中と云ふ事、その八宿示ホツ轉修申る

一上

一清の之言相修の後江ノ入素の之修、指は

申せ入

一上

一同日宗瀆後書、宗示、身事清の之言

事修の言多田修在事の之申大炊修友

伊豆守及上之口兩不沙也 城在

活志為義 横田角丸其の藤田丸其の

中重子海に濱波守及古川右馬守

中重子海濱波守及 然月具上

子海也

一 同日早朝藤田丸在の方古多田藤田

方、心之申中重子、宗濱波守、

對馬守辰安、同、重子、

伊豆守辰安、申、夜、入横田

角丸其の方古藤田丸、書状、

東對馬守辰安、重子、

海濱波守、申、

一 同日早朝酒井濱波守及古川右馬守

中重子、宗濱波守、私宅、

大炊守及伊豆守辰安、

通、結、申、中重子、



甲渡の毎年之渡の船乗に送文船  
の船乗をもて船乗母の船乗を重  
山に船乗及之船乗の船乗船渡海  
早くと之船乗又山に船乗  
と山に船乗の船乗船渡海  
下船の船乗と山に船乗船渡海  
其子細の去年の船乗船渡海  
和船の船乗の船乗船渡海  
初船の船乗の船乗船渡海  
舟の船乗の船乗船渡海  
瀆波の船乗の船乗船渡海  
海の船乗の船乗船渡海  
と山に船乗の船乗船渡海  
舟の船乗の船乗船渡海  
舟の船乗の船乗船渡海  
舟の船乗の船乗船渡海  
舟の船乗の船乗船渡海

昔も水好の伊豆も後より此の田も  
沙換投也大船後より此の先白も  
此の意も旨の對り也中より通船  
為中より瀧波也又より此の宗  
瀧波也梓の意も此の梓の中より  
先白彼者より此の別り也此の  
法好也此の家射も關示也此の  
昔の許の瀧波也此の此の此の  
中分り先白の義好也此の瀧波也  
六十餘り也此の此の中より此の  
大分り也此の此の旨の此の此の  
此の古川也此の相尋り也此の  
此の此の此の此の此の此の此の  
此の調り也此の瀧波也此の此の  
旨酒也瀧波也此の此の此の又  
此の此の此の此の此の此の此の



方の中をよみし事なり

一吉

同日土井大炊頭及公為使を横田角兵衛

と兼て江戸関山八宗瀆波寺奉納今日

酒井瀆波寺及松平伊豆寺及相模辻

お寺と各若君奉納に領に如る

物有と申す事あり也分奉納

に後公儀の奉納に奉納に下

人ありし事ありし中此方

奉納に申す事ありし事ありし

事ありし事ありし事ありし

事ありし事ありし事ありし

事ありし事ありし事ありし

事ありし事ありし事ありし

事ありし事ありし事ありし

事ありし事ありし事ありし

一十五

同日早朝大炊頭及公為、波系と

那日横田角丸の志に依り死守潰波に  
 中身は文 上之志は旨流と草紙作中  
 中身は如く大徳及に神の潰波と事  
 海先例 羽群 子後山 七身 科  
 之は乃れ神訓法厳守 之は如く神  
 の心は志年依り中身 母之痛友及に  
 の心 前乃れ 一の程 親類の式抄云  
 中身は如く白潰波年と事 別  
 獲と免中身の是言 中身の海電 別

相尋 如く六十歳 子如く先對馬  
 兄の子 如く如く又能前 依り如く人  
 之儀多し 母之如く如く 母之如く  
 公儀 之事 如く一儀 如く如く如く  
 之如く如く 如く如く 如く如く如く  
 中間 如く人 相尋 中身の如く如く  
 之如く如く 如く如く 如く如く如く

仕る中の時大徳院及之江の心東山下  
人更人との相も又之江の心名相言  
方之事は江の心名中の心名言中  
根大目付一人の心法之相の柳生  
但る書及之江の心名中名名  
大目付一人の心名相中上の心  
大目付の心名方の中造の時静思  
中上の心名中の心名相中造の時

中入の中法心大徳院之作心名  
讀法書及江の心名中法心名  
相所度之讀法及江の心名法心  
の心名及又拙宅との心名相中  
名角法白の心名及之江の心名

一日日酒中讀法書及之江の心名  
并修之者及又之江の心名及之江の心名  
中造の時讀法書及之江の心名柳川

五十一  
百一十  
一人  
為  
經  
云  
推  
也  
十  
上  
也

後  
六  
之  
好  
也  
有  
七  
八  
人  
百  
列  
也  
風  
等

仕  
白  
瀆  
波  
書  
有  
之  
以  
八  
宋  
瀆  
波  
書  
十  
下

四  
人  
十  
之  
若  
十  
之  
愛  
也  
推  
也  
十  
上  
之

宋  
瀆  
波  
書  
十  
流  
之  
為  
之  
作  
也  
也  
有

制  
發  
也  
及  
而  
好  
也  
由  
也  
若  
未  
也  
有  
幾

之  
也  
海  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
公  
儀  
之  
所  
也  
有  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也  
也

此の如くは自覚の中誰人と撰中事  
六入事の若くは筆中見介の事  
大炊原の辞退の沙轍程中多事  
有らるる如く然るの意旨也

一七

同日宗潰波書、是と云は流に流す可  
為居る事多し、多田源左の是紙  
右の紙中入の事及古又力使たる若  
和泉寺入来潰波書、對面にては

此の如く抄を御執程中、兼らるる箇事

和泉寺、勿誤す也

一六

同日はる宗潰波抄を、中歩元有  
之由の指しり又傳者、公儀を去切  
好配不、慈勤、堪悉法所、中  
傳是、分の潰波書、對面法也

一五

同日十二日、寺若くは系元、入来潰波書に  
之如く、中歩元三人、入来分潰波に

對面云々

一 一

同十三日早胡宗讚沙書卷之八卷之結  
之曉今他院系胡鮮書編後之  
相節五山之出家元之及中入之知多他院  
書符之りり法九海之來之六日之示之

一 一

其各符記之  
同廿六日書沖城讚波書友江豆書  
先日中上之通胡鮮通月之書編後之

美江之詮識之知沙之りり之りり  
沙兩人之江之ハ我之書難之ハ先  
之日之好之りり之りり之りり之りり  
之傳之拙之りり之りり之りり之りり  
有之ハ得之りり之りり之りり之りり  
之書之文之りり之りり之りり之りり  
之沙之書之りり之りり之りり之りり  
中法之りり之りり之りり之りり之りり

達長光浩西堂東福寺召長光勝西堂  
璘西堂恕西堂以通書符乃出但去  
十二日金地院中候の書符より一通之  
瀆波書及ら候ははし書符伊豆書及ら  
はお渡の相候とて沙の書符より  
今物支中より出る沙條書と候  
初別法と名は先例に物云旨先上  
の候とて夜に之を儀の中

上云とて夜に之を儀の中  
大者元とて遠中は今夜に一件の儀  
は候旨とて候は候儀とて候は候  
他人同あは候は候儀とて候は候  
物云旨とて候は候儀とて候は候  
符物云旨とて候は候儀とて候は候  
沙條の書符とて候は候儀とて候は候  
書云旨とて候は候儀とて候は候

其物言旨ハ何カ同カ、乃々之ヲ私クハ  
別カ方ニ度其好カ、朝ハ吾人ハ其言  
其類ハ瀨波寺及伊豆寺及之類又ハ  
對カ物言方ニモカ、物入カハ此所  
中程宜知カ計ニモカ、伊豆寺及之類  
所ニ由カ接取也又伊豆寺及物カハ  
之類等カハ、公用法カ此カ方ニモカ  
之類等カ、物カハ、馬カ、者

率來カ馬進上ニモカ、此カ方ニモカ  
此カ方、瀨波寺及此カ方、伊豆寺  
カ言カ、此カ方、伊豆寺及此カ方、  
此カ方、此カ方、中上カ、對カ、  
此カ方、柳川カ、宗瀨波寺、方長カ  
流芳院、内通カ、在カ、者、家財、意  
此カ方、記カ、与カ、此カ方、其、使カ、  
此カ方、海カ、此カ方、關カ、下カ、  
此カ方、帳カ、此カ方、何カ、方カ、





乃在御前ハニ奉ルル事ヲハ  
伊豆守トハ、ハ信濃山物トト上ル事  
舟乗ニ送シ船ヲニテ力延川ト作ル  
朝鮮ノ事ハ安好ト事ト浦ノ以テ奉ル事ト  
正治ハ古知ル事ト以テ方ノ事トハ  
信使事聘ノ相送シ事トハ、ハ信友ト  
其子細ハ朝鮮ノ好入ト在ル只日中ノ隣  
交ニ色ニハ、公儀ト思ハ入ル人周朝鮮

御征伐ノ事ト以テ智ニ事トハ、早速事聘  
仕ハ好ト事ト加東ノ執ル事ト照ル事ト  
正ニ事トハ、朝鮮ノ事ト聘ノ仕ハ好ト日中  
海船仕入ノ事トハ、信使事聘ノ仕ハ好ト不  
嚴ノ征伐ノ事トハ、保ル事トハ、好ト事トハ、  
其通ニ事トハ、好ト事トハ、好ト事トハ、好ト事トハ、  
其外ノ事トハ、好ト事トハ、好ト事トハ、好ト事トハ、  
朝鮮ノ事トハ、好ト事トハ、好ト事トハ、好ト事トハ、

平山朝八早... 事聘仕 公儀... 且入

相叶... 一... 事... 且入

一 <sup>表符</sup> 同日... 晚... 瀨波... 奉書

... 城... 事也

事也

一 <sup>表</sup> 同日... 己... 刻... 城... 事也

... 御前... 事也

... 波... 御前... 事也

... 若... 上... 事也

... 書... 御前... 事也

... 對... 御前... 事也

... 御前... 事也

... 上... 事... 御前... 事也

... 御前... 事也

... 御前... 事也

... 御前... 事也

修通者之其得 其意為之有之  
書符之之其之之之 其事也其之礼  
也也也也也也

一 六五

同十三日所之 修通書符相應也  
城之之之之之之之 其之之之之之  
其之之之之之之之 其之之之之之  
也後之通之 其書之之之之

一 六

又全地院之之對列 其之之之之  
書役之人極法之味之 其之之之之  
十人書符全地院之 其之之之之  
之之之之之之之之

一 六

同十四日也 城家 作之條書乃極言也  
其調之之之之之之 其之之之之之  
亦花之法也 其之之之之之  
乃其極言也 其之之之之之



私為之乎之通了乎上の御執程中  
此等之成りてりるを又侍同  
の讀み紙中からして條宛る物と念  
侍旨と申はるは河も其方と侍旨  
執程中又は紙の紙と書記の紙  
上紙とよもや侍之侍同と書する  
是れをよもや侍之侍同と書する  
侍同と下り也

右に條書に記す

一 羽解の書役の侍ら奉

右に公儀の侍の侍ら奉

一 儀相御の由羽解の侍の書契等

上之度も侍ら奉

右に御の侍の侍ら奉

侍の侍の侍の侍

一 信使事侍の侍の侍の侍







中渡の書方と今条書に比揚戸取反  
大船取反瀨波書反に書方と沙轍控中  
書面一段互に比執を係文に相徳の  
書方と其後何と法少相談に成との  
事一付分選も比

一回共二方也城一所方書と比書海交  
相細揚戸取反大船取反瀨波書反に  
書方と其後何と法少相談に成との

御執控中比比中書に執比書面能  
比比の揚部取反に比の比比對馬書公の  
書利有との為斗有との比御控中  
互取の比書に比の對馬書の力比比  
抄中比比の比比書中細く申  
度為との比比の比比公儀に比比入  
雅斗比比の比比の比比入斗書載  
比の比比の比比の比比の比比

瀨波書友に送る只朝鮮の事ある  
此の波書友に送る上より必書  
朝鮮國の收入拙より公事  
斗らるる事ある由國靜禮  
有る事  
好事の事  
拙より送る事  
沙書も早に難なるに文章  
永光  
法九の事  
拙より送る事  
御お送る事

右同

信くちの文章、永光、相済思ひ結

一光

八月廿七日 城法所る、とある 御送

法能より朝鮮の事、又一件為る事、拙  
より送る事、難有る事、上より送る事、後  
於此より拙より送る事、及瀨波書友、朝鮮  
細く、此の波書友、其の一件、為る事、及朝鮮  
中より、和文、并、為る事、及、拙言、旨  
口、執、行、中、日、の、事、の、法、書、が、



定る。之。中。連。山。以。御。穿。鑿。首。尾。能。  
為。是。作。之。以。朝鮮。之。相。當。故。母。之。在。  
之。為。以。海。之。之。好。之。能。又。以。高。例。道。文。  
之。海。之。則。日。中。新。鮮。通。用。之。也。也。  
前。之。母。之。相。遠。故。之。以。作。也。也。也。也。  
鮮。之。以。誠。信。之。道。所。要。好。也。也。也。也。  
後。花。作。也。也。也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

右。和。文。對。列。之。隣。西。堂。其。案。也。  
相。讓。使。者。有。所。在。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

大。身。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

台。金。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

日本國對馬州太守拾遺平義成奉書  
朝鮮國禮曹太人參足下  
氣候寒凜伏惟  
履況冲裕茲煩頻年柳川調真邪倭僭

越而

貴國之徠往中間而行私且浮言于

東武故徂冬以降遷延常例差份何恠

之有粵三月十一日

台命裁決是非而於逐調與於遠夷玄方

長老宗讚岐玄昊首座等亦依有過誤

以流徙島川內近調與之家司松尾七

右衛門兩士者遭嚴戮矣于時譯官騎

貴士來在斯視聽所及曲折湏口稟於

僉公良我曹本公冠

大君直道之所行也豈不雍熙悠久乎陋

島彼靜謐滿愜素臆何勞柔遠之

悃念仍想自後

貴國益修誠信之好兵早速雖欲遣送

使先便平智友船尾報斯一奉統巧

融炤揆序保練不宣

越竜輯し亥十一月日

身國對馬州太守拾遺平義成奉書

一<sup>右</sup>柳川孝子、朝鮮公使、重名、遣使、平并

衣冠、山所、唐流、平院、平亦、右、向、使、平

朝鮮、公、使、平、院、平、亦、右、向、使、平

大日本國對馬州太守拾遺平義成奉書

朝鮮國禮曹太人、調、問、下、

士柳川調與以、酌流芳之諸件書在別楮

貴國曾所

賜調與銅吊并衣冠以、酌流芳等之銅

吊今既返

獻

採納如何、情由統附使舌伏希

鈞察不宣

星舍し亥仲冬日下

一<sup>右</sup>大同、以、平、院、平、亦、右、向、使、平

日本國對馬州太守拾遺平 義成 啓達  
朝鮮國東萊府使足下

頃年柳川調與因搆邪俊去春三月  
決實否於

東武已竄逐調興於遠方玄方長老玄

昊首座亦以有過失播遷矣今陋島

彼舊諸民時雍 吾倚 比日皈鄉粵呈書

貴國於

禮曹太人專望轉達

貴國曾所

賜調與銅吊衣冠以酌流芳等之銅

吊統以返納

萬般奉悉

禮曹之楮面餘俟後信若時珍嗇不

宣

歲次乙亥仲冬月

紀清文前書之事

一 一、度按子一併粉皮の字を整へて

授又、殿中、字を違へ上関抄子等撰

通直抄字分抄を、清を、改安法に

と改る事、清奉公、此法を相違

及、和字、字儀偏、清當代の清に

事、和字、改、其、加、以、給、家、の、面目、之、

作、少、引、之、一、抄、式、難、中、也、は、は、大、福

粉、中、也、大、長、毛、引、不、事、好、效、全、之、

事、忘、其、志、の、事

一 一、抄、公儀、事、一、切、之、中、該、り

一 一、抄、出、法、法、度、下、相、省、中、の、補、り

一 一、日、中、朔、解、通、用、之、及、行、日、中、の、法、り

之、大、切、之、事、好、知、御、為、之、惠、快、之、毛、頭

住、之、補、之、行、り、り、す、好、解、之、心、也、れ

日、中、の、事、を、好、知、之、中、之、法、り、り



くし記帳にすすまゝにさしりるる日中又  
胡舞に何處沙隱客のそよめり水に大  
親教縁をたかきりてさしりるる一云のそ  
沙記にまゝにさしりるる

一胡舞に何處沙隱客のそよめり水に大  
親教縁をたかきりてさしりるる一云のそ  
沙記にまゝにさしりるる  
一胡舞に何處沙隱客のそよめり水に大  
親教縁をたかきりてさしりるる一云のそ  
沙記にまゝにさしりるる

右に御言思たれし縁に御志却に  
多浦の一言片辭扶徳のそよめり  
一古くあはれし書物徳のそよめり  
其のそよめり礼のそよめり  
一回日頃の方土舟に船に何處沙隱客のそよめり  
明胡瀆波のそよめり水に大親教縁をたかきりてさしりるる  
何處沙隱客のそよめり水に大親教縁をたかきりてさしりるる  
一云のそよめり

一 同日有早胡之船以友之宅、波系之知  
 酒井瀨波寺友柳寺、但馬寺友道春永  
 同資分許執持方山向前与友之相言  
 血判仕之寺友之与某同之寺友之同  
 未お海山友之書付之船以友瀨波寺友之  
 某寺之寺友信使某船之船之胡群之  
 中寺之書而倭文、お調之書付之寺友  
 之船以友之信九之船之拙之也、白海之結  
 送行之科理之寺友也

一 同日之船以友之寺友之寺友之寺友之  
 古川寺友之寺友之寺友之寺友之寺友之  
 寺友之寺友之寺友之寺友之寺友之寺友之  
 并書役之僧對列之町屋、之寺友之寺友之  
 寺友之寺友之寺友之寺友之寺友之寺友之  
 一 柳川寺友之寺友之寺友之寺友之寺友之  
 願不之也、後對馬寺友之寺友之寺友之

一 然亦さう後

一 柳川君の本籍を以て知り不承に平就

沙代皮取の事

八月十日

八月十日

一 同十二日古川右馬介 所城に於て

一 執権中より上り書役と作身は信於

對列持中より中程に侍り信成

の是言はしゆり不知り貴、如所沙厭

ら如地先百之を、之の事ハ

公儀より治身知る者、この事也

一 同十三日羽土井上炊屋に為り服乞来以

料理有し拙より今度、公事、

之らと云者大に少る分、之り者大

めあり、之は了り、之れ次、其の者大皆

知り、諸より無ら、又ハ拙り、之れ役

法をいふのうもとてある者ら法はさすも

す別儀園とてしるるる。此者いふも

この法はあはち飲夜と法は、す別儀

是とて者夫の見合。ら法は此の法は

者ともあはよ。この法は中中法は、豊

作あるに度く。公事と法對するは

法はあはち法とて中中法は、果とて

中中法は、豊とて方から法は、立法は、

いよ者らの者とも。此者いふも、この法は

中中法は、あはち。此の法は、法は、

中中法は、度豊とて方からあはち、此法は、

中中法は、あはち。此法は、此法は、

この法は、あはち。此法は、此法は、

未定法は、あはち。此法は、此法は、

この法は、あはち。此法は、此法は、

この法は、あはち。此法は、此法は、

この法は、あはち。此法は、此法は、

三十四

三十五

の事公の時より法沙徒の如く者  
と下し、の如く併書翰と書と後  
と、の如く之と書翰の草葉次  
中より之の如く之度と公事と  
之の如く書翰書と後と見公の如く  
と之の如く

三十四  
一月十六日噴法却師永在法中入來

今日、事終、飛師、永來對列、  
書役之僧三人相換、  
中來比、今年、隣西堂、  
分永在法中書翰、

三十五  
一回、書役、  
天龍寺、  
東福寺、

慈濟院、  
仙長光、  
南昌院、  
呂長光、  
寶勝院、  
璘西堂、

三十五  
九月、  
同、

三十五  
古川古島ゆきと三島飯之胡餅通用  
書役と相尚三人と和同元年中流病と  
和同元年中流病と名中書、和同元年中流病  
和同元年中流病と名中書、和同元年中流病  
和同元年中流病と名中書、和同元年中流病

三十六  
一回六日極倉因防書友と素、和同元年中  
長生瑞西堂入来因防書友同分封列  
胡餅通用と書役瑞書書友治年と旨  
中流入因防書友と治年、對馬書和文

三十七  
和同元年中素、和同元年中  
和同元年中素、和同元年中  
和同元年中素、和同元年中

三十八  
十月廿一日家来流雄貞と素、和同元年中  
素、和同元年中素、和同元年中  
素、和同元年中素、和同元年中  
素、和同元年中素、和同元年中

三十九  
對列と十一月有瑞西堂流東流

一 為り清輔控中、中上之重の事あり、朝鮮の  
改定に衣冠并送使船に下りて先朝鮮  
國に送ぬ、山流中入分た、亦隣西堂に  
然る自の也

一 同日治雄貞在事の、赤浦新島流風平  
海有願下、法道具之、赤浦船中あり  
赤浦赤木伊集の、之作又日、十在の、  
相渡山中、中、事、

一 同日十九日、燕と朝鮮、書翰、清田  
了、清書記、記、隣西堂、の、事、  
案、清書、事、事、隣西堂、の、事、  
初、方、の、事、事、向、後、の、事、  
中、事、事、事、使、事、事、使、事、事、  
中、事、事、事、使、事、事、使、事、事、

一 十二月九日、名田、事、事、事、事、  
事、事、事、事、事、事、事、事、  
相渡、事、事、事、事、事、事、事、

書狀續系文辨九多

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

一國一上知お事是初村千乃く不山伏在来

十月八日 末次平義判

末次平義判

宗對馬吉次





山前唐儀芳院清河内近松尾七重  
右殿不物之長松浦松尾寺方之松尾  
之申如古之志也

松平洋直書

二月廿九日

酒井瀧波書

土女大船頭

宋對馬書

甲午

十一月十二日朔辭之信使也 城之礼

相渡山同十四日拙之被奪城之支尾港

大綱言義直公水戸中綱言之杉原公

舟浮揚船隊及之江之三日三使也城

海軍之田山由海接板有之支揚尾之

海軍之言之由作之使 御目見也海軍

也好也其之今度之書翰文章事也

無之也 公方様之 大君之書也

年号と一字下の書 日本に清治徳を  
数く書入のりびく書 梅のあふくを例  
之取の世後日本入平く清威徳の信  
考く比得の柳川豊安の并中堅来七右衛門  
虚仍漢言の所証は對馬とを茂  
く一と天とを誣りてを科とを言と甚  
重義のゆとを治の時御の在申何義信  
く通の光のゆと沙換扱也

一 横田角左衛門の藤田九右衛門の對列の  
下看對府と申中く治事

寛永十一年

甲子

十二月十九日土卦左欽頭及右堅来横田

角左衛門の松平伊豆守及沙堅来藤田九右衛門  
一併之義守を捨使對列の  
物と堅来多田源右衛門の相附とを對府

总取

〇横田角丸傳の宿屋形水基の宿宅

〇藤田九郎左衛門の宿屋形水基の宿宅

〇横田角丸の宿屋形水基の宿宅

〇藤田九郎左衛門の宿屋形水基の宿宅

〇右衛門捨使船合の揚西山寺一見は

其悦多由人たに宿と西山寺に後也

一〇月廿日多由使多田源左衛門の宿屋形水基の宿宅

家乞西山寺の宿屋形水基の宿宅

宿女柳川勘多由古川或那多田監物

西山寺の宿屋形水基の宿宅

家来柳川の宿屋形水基の宿宅

豊前家来松尾七右衛門の宿屋形水基の宿宅

此の宿屋形捨使の宿屋形水基の宿宅

大炊頭及伊豆守の宿屋形水基の宿宅

此相渡の宿屋形水基の宿宅

胡群上系不掠 公儀之由中達之  
又西使中系之義 年之由下之義  
甘之由之古之義の所証中之治身可之  
穿鑿之為之且又方長之江戸之義  
如越之由下流度之由何之由如之由  
此之由中系之由何之由方長之由下達之由  
心刻入來捨使對面江戸系之由義  
江戸流之由又古之義の十之義の如之義の治之

乃、之由出之由使之由等之由子洋之由  
取之映之由如之由古之義の十之由六之由  
先年之由之由義之由對馬之由及之由  
勅令之由御執持中之由扱之由波初之由  
之由後對馬之由及之由脈之由別豐之由  
中之由七之由古之義の由及之由連下之由  
古之由之由何之由有之由古之由中系之由  
如之由初後之由治身之由古之由連下之由

予方の名を基養父の知り勅定之義  
有るに連之口又次中より戸の民使高  
と其書の中達しつゝ大徳院へ達し沙牟  
沙牟藏亦之を對馬吉原の山に法  
沙牟の則に信託ありて之を之の切  
定ハ之を取却る事理也（並に其書  
之中符門の事あり）  
此の如くは之の義ハ守用は指し戸作  
新書に記し授之一書、詳に信託古書  
の事なる由使信者之に疑難交申す  
少後之に指し相見しもの古書に記す  
退如信外由使信雲彩之義古書の  
對面書方、西山守らるる事也  
古書の中古書に記す方長を字女羽舞  
上京の時相踏系に車一人の事あり可  
る事あり當面君合の事ハ記別は

右同

のり出の方長老宗女義貞の  
子吾母宅守の孫と号後山又宗女  
御子口入の孫義貞の孫守年

一 <sup>右</sup>同日朝鮮海海の船山停山は成  
割札立し

一 <sup>右</sup>同日勅命由或は過地西山寺  
系山守の使守長念上系相降軍  
石出孫子に守年山并使者大父母

妻子兄弟の教又上り下り中  
朝鮮海海信の船教書守年守年  
守年山守年記の守年

一 即日割札立しと守年守年  
公儀の守年守年守年守年守年  
中入守年守年守年守年守年

一 由使守年守年守年守年守年  
守年守年守年守年守年守年

海宅

。多使古志書の事。一併に義多相尋古志  
白状の謀書に筆筆者彫平山志何も  
古系十七人の内有るは古河戸の志者で  
中志の旨中志の傳出也。

一 <sup>古</sup>同舟の古多使傳田録七。らお尋作を  
寛永元甲子年同六巳巳年右多  
夜の書等々下之身彫中の式録七

上の全少好の子細ハ志の事の内下之身  
取らるは戸の志者右之好の志の志者  
中志也。

。今も豊後豆醜佐次三郡に給人亦  
之志の事也。古府別西山寺の志者  
使町中。辛光并給人。古河  
朝鮮の流海等々。停山の志者  
船と古河者。お尋。志速。古河





の文の之に及んずる事と此の如き事  
ありては之れも亦

大目

一 同共三日由文活左馬の云々

書書勤毎由或於監物西山寺の如き

由使事の元和丁巳年信使事傳

之時方長老裁判す中七右馬の白

物は元和辛酉年法所丸の教

宗瀨波大東繼反仲同勝中流迄

と云はるる事ありて是の時継反

父子の事ありて瀨波と云はるる事

中波の清川因迄の事ありて是の時

瀨波と云はるる事ありて是の時

事ありて是の時

者夫道なる事ありて是の時

事ありて是の時

事ありて是の時

中山唯々此の連の十七人の名を  
 名に先傳記の中分治中、この列の  
 一 同日伊奈豊崎依波紅位女部之  
 上府外西寺羽解通用之船  
 是乃由此流如先日中流也

少老の謀書に執筆中を船に者母  
 之と云々也中書之治中、之波書裁  
 分傳者白紙に通執筆中、船中  
 自飲の仕のつばに由來あり、中書  
 其人有く、中書に難斗、中書  
 何れの中入る、中書に飲法を能令  
 中書に人、中書に中書に中書に  
 十七人中、中書に中書に中書に

右

一 同日兩使松尾左衛門尉、對面は相尋候

大有之申之、後由丈左衛門尉よりと談義

理之志、能妙に申之申之、古太夫の御所

恨有之、大私之、右之、用之

公儀、御決、申有之、我之、古太夫の

仇之、此之、却之、對馬、申有之、為之、我之

唐、事、申有之、彼、古太夫の、因、人、申有之、

物を、誓、憤、能、申有之、恨、と、録、と、下、好

入、申、申、申、乃、言、他、彼、分、古太夫の、入、事、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

一 系の古志の十志の六志の一回の  
久和七年の御下凡の古後の時  
差の古志の十志の六志の一回の  
古後の時  
古後の時  
古後の時

一 古 一回の古の御下凡の古後の時

一 古 一回の古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

古の御下凡の古後の時

一 古 古の御下凡の古後の時

一 昭和治世の正史の胡蝶と云ふ後世の  
物語有らざる也

一 南使清川の由色と云ふ史の如く龍の如き  
ものも有らざる相尋の中

一 南使勅命の中、甲午の十三年の事  
清平の海海の時と云ふ事

一 佐中史の事、古くは分志史の佐中  
傳と云ふ及、江戸の事、古くは江戸の事

一 同史、江戸の事、古くは江戸の事、古くは江戸の事

一 中史、勅命の中、分志史の事、古くは分志史の事

一 分志史の事、古くは分志史の事、古くは分志史の事

一 佐中史の事、古くは佐中史の事、古くは佐中史の事

之成山海之勤每中中分并之在  
中分之款仕与使之也

一右

与使并山八人东德后少村之之也

事七太志のり山書我結分法白く  
法論議之り相約者松中并之通

何之表のり中七之り之り

一右同

同廿八日書書勤每由式部世皇物原の

何之与使のり而之り中り之り相遠之通之款

仕お後入并里末也之在為之浦少之文  
今夜羽解のり水流のり和之書御并  
傳之り之り水之り自船以之り文之り下物言  
旨之り信通与使下之り達之り

一右同

寛永十二癸卯年正月七日横田角金の

山窪田九之在為のり山八人と府之り列のり者夫

之也今日對府之り帆





玄菟白

杉村宗女仲

女房

男子貳人

但一人田代一人白屋者

松尾加右衛門

女房

男子貳人 但病者

平山久左衛門

親貳人

女房

女子貳人

清田進屋

女房

男子貳人

平井三四郎

母

加藤六左衛門

女房

女子貳人

吉仲

女房

少八

女房

女子貳人

長光者

日 日 女者

胡群者

日

日

日

日

日 日 日 日 日 日

有

右、胡解、如、之

日

胡解、居

有田、查、集

男子或人  
女子或人

平田、源、右、妻

女、居、方

日、七、少

田、代、居

男子或人

日、水、多、束

女、居、方

勝田、孫、七  
女、居、方

日、妻、者

扇、角、右、妻

男子或人  
女子或人

大、久、保、左、妻

親、或、人

女子或人

控、友、右、妻

女、居、方

平、田、部、右、妻

親、或、人

女子或人

日、田、代、居

日

日

日

日、日

胡、解、居

賞

賞長光

杉村宗女少

徐嘉之

玄嘉之

松尾加左衛門

平山久左衛門

有田嘉幸

下田源左衛門

平井三郎

如次六左衛門

吉中  
少八

扇角左衛門

上久保左衛門

榎友六左衛門

上田勘左衛門

海幸  
吉中

右、胡舞部、通、以者

清田源七

有田直兼下田源重の兩人、後自羽鮮  
湯崎、次中志度、久上の田代、若春  
者、河次、兼、途、和、中、後、の

右之人、教、信、長、信、守、今、度、若、春、の、謀、  
書、筆、形、彫、之、後、其、口、實、之、通、松、尾、  
七、右、重、の、自、歎、之、言、重、之、由、信、守、の、由、  
る、所、對、馬、書、可、く、中、世、の、之、度、之、由、事、の、  
人、教、之、由、河、次、次、病、死、未、仕、後、之、由、事、  
一、時、信、死、人、松、尾、七、右、重、の、自、歎、之、言、重、之、由、  
下、中、世、の、教、之、由、事、一、事、也、件、

寛永十一年

十二月廿四日

横田角左衛門及

藤田九左衛門及

柳川勘兵衛由  
古川或中補  
柳川書書由  
杉村宗由

一、柳川豊前守出入、今、年、与、松、尾、七、右、重、の、依、被、  
分、右、重、の、之、度、及、之、由、事、連、山、為、之、由、事、

松尾氏書来曰小集未仕彼之音念の事  
親親中常々之語言根有夫古書の  
分有之云云之佛未仕仕如等戸 等  
依作此の件

十一月廿六日  
横田角丸書友  
松村宗女少  
柳川勘嘉由  
古川或戸少捕  
柳川書書少  
古川或戸少捕

一 横田角丸書友大浦甚集十二月八日

中事定や力少秋也件

十二月廿六日

柳川勘嘉由  
古川或戸少捕  
柳川書書少  
松村宗女少

横田角丸書友  
松村宗女少

一 柳川豊是方少公事落之云々ハ朝鮮に

海海之船法度等と云々之者云々  
古川或戸少捕 朝鮮近不集少捕

之申之仙舟の自然相背者有之と  
取然、許人、の舟出之旨は又、此舟の  
我、方、も、海、相、背、と、申、中、等、の、海、沿、に  
仰、の、舟

十二月廿七日

横田換れ書友

篠田丸に書友

柳川勅存也  
古川或中補  
折川墨書也  
杉村宗也

禁制

對馬府

とく

一 豊前等一伴為之とて、朝鮮、船渡

中事、山、法、有、之、給、舟、の、為、船、能、を、示、し

獲、船、亦、来、る、補、り

右、舟、の、遠、程、に、業、於、有、之、と、申、す

海、船、科、也

寛文永土 甲戌年十二月廿日

奉行

負

宋瀆波書

女房

男子

女子

柳川勘齋

女房

男子

海邊

女房

古川

古川式部

柳川書畫

三月廿七日

横田角金友

小澤田乃基友

西山寺

松尾

海邊

女子

平山

修永

多田監物  
小田清右衛門  
岩松之左衛門  
松井源三郎  
松尾洋右衛門  
脇田孝左衛門

右柳川豊前守公事落之云云一羽解  
海海之船山法方等之遊獵船也云云  
と示す来るる補之由之云云

相背者於有之云云然一羽人可  
おきぬと云ふ山係此の條

十二月廿七日 多田監物

横田貞左衛門  
山原田九左衛門

一 我亦奉十三年之命羽解之云云後之由  
柳川孝左衛門方公松尾七左衛門云云



一 乃波軒破の地大頻中守に對馬  
相尋の地と云ふの事若くは海防の地  
の波海海の時對馬守方公為錢池  
守中提議武治の事守方公為合衆  
を貫同に送の其父他波守守の持業  
守に軒破の地は親波守守の中守  
清光守守の地分守守の地守金山浦  
守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守

如治州守守

正月二日

宗瀆波守

横田角守守  
藤田九守守

一 宗瀆波守儀今度江戸系上守守守  
由守守一件守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守

女子之人有之 信作抄紙

正月首

横田角金の友

藤田九右衛門

柳川書書抄

古川或子抄

一 鴻川内通事 今度及江戸集上と云々

之申の事一件ありて之に悦ば無仕紙に

中身は旨草抄と云々の信作者初老紙

以て有るす又元草抄の雛紙抄紙紙紙

女房男子三人女子一人有之

正月二日

柳川書書抄

古川或子抄

横田角金の友

藤田九右衛門

一 松尾七太夫の一卷之内ト上の人教今度

江戸、之の事(此等)詠次中(の)意と入作

自然物死も住者も之に我々 雛斗

好む方と云ふ件

正月三日

横田角兵衛

藤田九郎兵衛

多田源太夫  
文川惣太夫  
清雄おとす補

一十三年と云ふ朝鮮の  
以後の時松尾  
七太夫の古友と云ふ  
西度と料取仕と云ふ  
對馬と云ふ

達山は其の事を知りて  
以後の申  
と云ふ事  
神をまじへて  
福をまじへて  
入用と云ふ  
相調ひの  
事  
事  
事

一 我亦病中と云ふ人

一 此の一事は、  
沙等、  
中、  
彼方長を、  
少の糾、  
の書、  
苟案、  
先書、  
此、

正月三日

鴻川内通判

白

一 今度松尾七右衛門の目あき中、  
力使方長先、  
海、  
手、

通、桐督儀等とある。上京に候身と  
ありて、隠りたる別、私下上候當  
治、名もいふは、中、人、まゝに  
御公儀とある。通、下上、信、作、候  
一、正月、四日、村、宗、女、也  
横田角丸重友  
山内田角丸重友

一、元和三年、宗對馬守、柳川、重、宗、私

出入、有、る、豊、前、の、中、に、仕、和、睦、と、い、は、れ、  
古、き、あ、ら、う、と、い、ふ、事、の、別、辭、に、從、來、宗、  
清、中、万、事、大、に、親、祀、文、と、い、ふ、事、中、  
平、田、左、兵、衛、尉、宗、重、人、と、い、ふ、事、中、  
宗、重、前、の、中、に、あ、ら、う、と、い、ふ、事、中、  
旨、を、好、通、と、い、ふ、事、中、仕、對、馬、守、と、い、ふ、事、  
我、も、と、い、は、れ、好、對、馬、守、又、い、は、れ、威、儀、院、と、  
折、言、旨、仕、候、と、い、ふ、事、中、あ、ら、う、と、い、ふ、事、中、

位の上の縁造りも法重系が對  
其別後万事肝要の如く申上事  
之紛争も我亦依病を才一分  
今有る名重の以通し沈持の如  
之如立の威徳院も尋中も  
其如く申上り入の意旨を一札申

二月四日 宗瀆波書

古川或子補

横田角在書及 男 柳川宗書  
藤田九郎書及

柳川調具公事記録中終

寛永十二年

一内老中

権

一内老中

修治以正之經造...

其別儀萬事所...

予紛而久之我...

今有方之重...

少而之...

出如...

柳川調真公事

記錄下

柳川調真公事

柳川調真公事

實永十一年

一御老中...

控

一御老中...

一 日記

一 書改紙上の事... 柳川...

出入儀の... 上関早送

相見の... 儀...

胡舞... 夜...

儀... 相拘...

並... 延...

儀... 延...

之願... 津...

之... 延...

若... 延...

其... 延...

卯月廿一日

之... 延...

其... 延...

土野大炊頭

使 古川右馬助



右之口為之字

之胡之字書詳見往之柳川書  
出入之義達 上関之知と水之代  
中も亦之右之敬被相候之柳疎  
意と之好之之持流之

卯月廿百 土舟之船

宋對馬松

去法

之胡之被伺之之好之沙解之  
之無神自之好之知之先自之上  
之柳川豊之前方出入之候之知之  
之信法之水之度之好之之柳上之  
之相代之知之備之頼之胡解之  
之并知り不之少之味中之好之度之  
之口之好之夫及四年延之門之建之  
之好之之順之平下之好之暫之時之被之滑之

此書之相傳多矣其言頗奇而中其  
好也乎曰 日光之於沙鐵也象之  
隱之於水而發也如夫之極也然  
此入多下少也之謂也下之其類作  
之類

日光沙鐵之類也其類作之類也  
其類作之類也

中其類作之類也

使古川右馬助

酒井瀨列抄

宗對馬守

右之口也事之字

先別之也書委波汗見也此類  
既水中也私候之晚夜通 日光  
系之大飲及所也當書也此類  
之儀之也此入也内之掃也及也飲也  
以中相傳也此注度也此類  
此入也此類也此類也此類也  
日光也此類也此類也此類也

山脈乞下入の心持流之

あつては心使の事上は好大後介は也中  
ゆるりあつて流をこゆる

奇月二日

酒井瀨波書

宗對馬書状 言信

一書波使上の以多を沙見舞亭上

す書つたとの紙を柳川豊前方本

入る紙連く抄上の上及三百年お虎

亭何れ波使悲の物鮮流中并

知り可来少く心味中舞度及紙大の

山崎大あつて延川の事成中一英國人

印物少あつた好考公極も境考あ

方中上紙の内く取及のウと海心考

名心沙見合公延達 上少早速忠虎

中極海其頼心素と一の好考考一丸

言際をも少好素少び山下くも朝

面好の心持流之

酒井瀨波書

延川子必可中 延志結名 彦中上言  
弟之 其類介 其他の 彦

六月冒 宗對馬書

女伊掃戸 使古川右馬少

右之 事

眼之 考札 亦之 好の 女則之 友

沙能波 延志の 肉之 延志の 所

永之 延志の 相所 官の 延志の

此之 延志の 通所 寺中

中 達 作之 意 豊之 前 方 分 事 延

中 延志の 妻之 胡 角之 所 之 延志の

六月 女伊掃戸

宗對馬書

延志の 延志の 延志の 延志の

延志の 延志の 延志の 延志の

延志の 延志の 延志の 延志の

○柳川豊前之侯之弟目と相背  
度、攝私也遠彼を戸候毎度  
ト送、坊大守と書付、夜進  
況、申上御事、此及巨細大抵  
之次才、此愈々自心

二

一 當豊前祀文柳川戸御指、祀文宗  
瀆波寺丸立家良段中付、親豊前  
當豊前、此相替、御辭、此中并

知り、不代及万事中付、此

一 旨

一 親豊前相果、此別、拙者親對馬寺、此

先親下事、此中付、此當豊前、此

之御指、此中付、此并此、此

一名柳川、此内、此人、此後、此

元、此を頼、此目見、此

一 旨

一 権理、此御事、此目見、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

元豐四年三月甲子朔五日壬午  
若輩之相替也鮮之儀也  
山東之相替也所公儀萬  
元川見合由中も江進中為之  
好其通也中事

一 實永三年 武平之入江豐  
方中採山刻 亦之少而方國師  
右馬の交反伊丹播磨及山沙矣見

一 實永八年 二月十日 亦之方古川  
右馬の平田將監也方中少古對  
山東採山也知り并朝鮮之儀  
船之介万り中事也  
此下之也中然也之儀與人者  
中事也其相替也十日也  
人志中事也禮文親心來也

日布之儀是下符事、時先年仁角  
出入中、刻國師松平右衛門守友、伊丹  
播磨守、山法裁判君、信之、道之、相之  
業之、事之、仕之、好之、信之、徳之、事之、  
貴之、親之、心之、中之、由之、是之、候之、事之、  
令之、中之、考之、治之、一之、方之、令之、息之、仕之、割之、治之、意  
事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
少之、事之、以之、候之、能之、大之、君之、信之、道之、相之、事之、  
公之、信之、事之、事之、少之、事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
之、友之、力之、大之、候之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
中之、事之、事之、

右之、事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
山之、度之、事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
障之、事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
未之、事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、  
少之、事之、以之、候之、能之、御之、公之、儀之、事之、少之、事之、

後世是方月之方中入鏡也  
若方之方中亦相遠之方之相也  
中之方之方中亦相遠之方之相也  
中之方之方中亦相遠之方之相也

六月六日

宋對馬

判

酒井雅忠  
土野左次郎

少之甚遠之方中亦相遠之方之相也

此時酒井瀆波書及八山用之日光  
涉敏之方中亦相遠之方之相也  
書之方中亦相遠之方之相也  
涉敏之方中亦相遠之方之相也  
涉敏之方中亦相遠之方之相也

右書立之相法也

一書波映上之方中亦相遠之方之相也  
中亦相遠之方中亦相遠之方之相也



粗中造之均其書之佳。夜子洗由  
其以步出乃其坊書符之越由也  
少洗由也其飲以之其以該子之可  
物如也其洗由也。公儀之服  
以後相物也其也中其也其也其也  
其按也其洗授量也其也其也其也  
洗也

八月六日

使古川右馬介

酒升雜樂其狀

一書改也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
也尋其符粗中上之其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也  
進獻也其也其也其也其也其也其也其也  
相也其也其也其也其也其也其也其也其也

八月六日

使古川

土井大炊改反

平礼波洋見山所夕之極子沙書之  
多山書局之純明白於沙城  
土井大炊反中該一玉母見之法  
委細古川大馬少方之  
之系之能書田山之極  
之書局之極之書局之極

六月六日

酒井雜樂反

宗對馬書反

沙書中之極之極見山所夕之極  
酒井雜樂反之極之極見山所夕之極  
尤好之波持見相後之法之極  
之極

六月六日

土井大炊反

宗對馬書反

一書波也之極中紀沙之波入

之儀之增書之酒井雜樂以爲是進  
作定之之成沙洗之昔好之西面充  
多之沙眼之之如取及之指之  
彼一儀之途上之少之之眼之  
有之之之之及之好之之之  
造之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之

六月九日

使古之

土井之飲以友

之札之執之好見之如之肉之水儀  
書之之之酒雜樂及之之沙洗紙披  
見中之酒瀆列之之明中  
系山之乃之彼相談之御跡意之不  
好之之之之之之之之之之

六月九日

土井之飲以

宗對馬松

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

# 首

一 <sup>三</sup> 件 運 相 海 山 旨 胡 鮮 船 渡

使 船 之 後 中 度 船 之 後 中 度  
船 之 中 度 船 之 後 中 度 船 之 後  
大 船 運 面 往 日 教 相 定 之 中 度  
右 中 度 船 之 後 中 度 船 之 後 中 度  
之 者 船 之 後 中 度 船 之 後 中 度  
之 者 船 之 後 中 度 船 之 後 中 度

云々年々大く送使船中座付之支  
一併就山穿鬣、渡海と相留山を照  
と云々亦、亦有山、付大く父の也と云  
山、云々一、中座船とて、すく初ら渡山  
送使者、地を拙子、不勢力も有、後、  
山、云々、付、中座船とて、云々、  
先年、の、渡り、者、山、云々、  
海、是、付、中座船、の、船、と、好、山、と、海、云々

相談仕差渡山事

他付船さ歳遣船也けいせんあり

一、<sup>有</sup>才一船、差渡山、極子、其、年、始、山、渡り、山、  
船、と、て、山、右、才、一、船、と、山、通、用、せ、別、紙、  
上、の、送、使、差、渡、山、船、と、自、細、詳、度、  
中、山、と、云、と、海、船、と、云、と、さ、る、あ、と、云、  
と、船、と、云、山、先、例、と、山、右、付、信、使、紙、  
中、渡、山、書、梅、と、文、云、及、拙、子、見、合、

中老と神出牙作止りと後朝鮮  
好少志一併對馬書埋運之水由と  
送使とすす山後と書田とて之を  
仕付まはり差後の事  
一 <sup>右</sup> 信使に儀中老使りと別乘せり  
一 書梅と題して中後と後朝鮮を  
為りおのふる度及信使差後の礼  
了後河と中取の日本 當上様  
沙位よつをこれと別信使差後  
の礼中上の自前と 沖一代と底と  
相渡例儀との去先 大君薨  
逝の後と相替りたる沙靜禮封と  
道とと沖治のよと取りの日本と  
沖恭平の朝鮮と長久と好知の  
唯々信使差後の礼と好と對と書  
見合と上の事と誠信と道と好とる







一 貴方は侍の儀に相定し  
此後之儀に之りては胡群より後と  
相らつては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に  
之りては侍の儀に相定し侍の儀に

寛永八年十一月十日

一 十二月十日辰柳川豊前方古川右馬助  
平田為監と申すに我末持申仕立申知り  
并胡群の差後申取万事申有宜申  
事申有宜申取申中然申有宜申  
有人之者我末申有宜申有宜申有宜申  
豊前方申有宜申有宜申有宜申有宜申  
故旧申有宜申有宜申有宜申有宜申

朱子之入於坊方中然山之別去  
或成沙投也氣之入於道之氣也  
何年之別心有可補之好境此方海方  
相相遠山後之變別也中亦之及  
是時由中者得夫之今息之仕是也  
波雜之 御公儀之少而之也亦  
者之也作也少之氣味能相果了也  
中誠與人使也其而自仕公之也

之山之時之既之也其其良錫也  
少也

右同

拙子祖父讀波也時當與前祖父也  
名業之一字也ゆ。一之後親也  
當與前之字也一字也傳也也也也  
之也名業之字也武山之智也事也  
拙子船也也也也也也也也也也  
一也也也也也也也也也也也也也

朝鮮信使來朝之節、俄取中、毛、  
仕希、淡、二、三、四、の、大、と、多、く、仕、替、自、由、  
と、ま、の、事、

一 有

朝鮮之儀、拙子、成、の、所、次、仕、來、少、と、下、  
等、り、其、前、祖、父、に、拙、子、親、中、竹、重、の、  
有、以、之、續、苗、豐、前、下、代、之、者、公、奉、山、浦、の、  
有、主、計、り、拙、子、下、知、治、才、仕、を、追、奉、を、  
是、安、下、代、に、拙、子、と、茂、仕、計、り、考、ふ、の、

一 有

介、等、實、儀、所、知、仕、の、一、と、對、馬、を、  
茂、後、所、公、儀、考、ふ、の、ら、り、あ、と、先、の、  
被、流、云、の、沙、治、と、限、の、仕、公、絶、之、説、り、  
行、幸、之、沙、時、考、ふ、の、所、仕、其、仕、の、儀、の、諸、  
古、名、沙、内、の、諸、を、更、仕、者、何、茂、被、流、仕、  
之、中、中、國、の、考、ふ、の、身、茂、沙、仕、の、考、ふ、作、  
後、の、水、の、考、ふ、の、儀、を、更、仕、を、之、被、  
の、儀、の、考、ふ、の、中、採、の、儀、を、又、相、違、一、仕、の、

一 有

朝鮮信使來朝之節、俄取中、毛、  
仕希、淡、二、三、四、の、大、と、多、く、仕、替、自、由、  
と、ま、の、事、

之上諸多文結の儀を、之より力心より是に  
の如く申すに、中へ傳出の御書  
世に先年異國の信使出後沙礼  
中より別來官位並給ひ、之を以て  
事茂諸多文結の儀を、物の中へ  
に給ひ、之より力心より是に  
仕山根の中へ、物子傳車、之より  
相違、之より力心より是に

右同

一七八九年心算式十之、右入

中然り別、各の中へ、其茶肆養食、之  
式十之、右入、野古豊前、物子  
親也、之より力心より是に、同  
西勢、之より力心より是に、  
中へ、村と私、之より力心より是に、  
代、之より力心より是に、  
沙、之より力心より是に、

軍に之を成す由りも一に前代未だ之に  
後し事

一 有

先年清艦が下浦崎町に泊りて改  
修す西町にして船泊る者自由  
實とせしと判町人の子たさしとらるる  
能多るははり中其のありはるる事  
中はそ又相違はらる

一 有

海者之事とて大急なりと縁去と  
随分加憐酷持ゆり事と却ら歎き  
振舞天下に介歩波は是の如く事  
に其のありる如くはははははは  
某中へ通はるらふも清は是れ其の  
身ははははははは日本に後と及  
中異國とて中歩事とて事と事  
事

一 有

親豊前相果山別當女方中  
 駿府山紙祖父某御目見仕  
 次日御目見仕由中古對  
 中ハ我末友進付ハ戸駿府、兼上戸  
 山有相侍仕侍之良正連、女と湯幸  
 女ハ死、侍也、御目見仕也  
 中中少少ハ先、女と相侍  
 中中ハ兼若軍者、中事ハ  
 女ハ後仕方人、女上中ハ

一月山有、中豊前親執柳川  
 中者、女と相侍、女ハ女南を  
 親御目見仕也、中ハ女南、中ハ  
 當豊前事、ハ富元、相侍也、山紙  
 中ハ女、中ハ女、御前、女ハ女  
 進中、ハ遠國、中ハ女、女  
 中ハ女、中ハ女、中ハ女、中ハ女

右之儀之好なる所公儀大切好なる  
驛府、相詰之せありと有り也、

一右月

豊前事其後ら下流中胡舞儀も  
談合之せ中他部之儀も其儀之儀  
好み下流之儀も其儀一、好み下流浦  
中比之儀又中其儀、為拙子社在府之  
之世比、首尾遠く、中其儀、其儀、  
好み下流好み中其儀、其儀、其儀、  
其儀、其儀、其儀、其儀、其儀、其儀、

卯月九日、其儀其儀の立下流其儀  
親對馬寺相果の好なる儀、其儀、  
右對馬寺右與人、者、相詰、其儀、  
御目見、其儀、驛府、相詰、其儀、  
此公儀、其儀、好、御前、其儀、  
其儀、其儀、其儀、其儀、其儀、  
其儀、其儀、其儀、其儀、其儀、  
其儀、其儀、其儀、其儀、其儀、  
其儀、其儀、其儀、其儀、其儀、

和文筆奉公信紙、別紙より浦由  
中紙信文と書物、海中山紙又家書  
と者大中山を對馬と、書ふ別紙に  
奉公信と書、書ふ別紙より浦  
由中山を物言紙と信書、海中山  
宋少中山書と書、書ふ別紙より  
物言紙、書物と書、書ふ別紙より  
浦奉公と書、書ふ別紙より一

右  
一

寛永二年、茶肆書文、代友、  
英用申、松尾七右衛門、  
英用、取申、中、書、七右衛門、  
書、前、知、武、十、二、皆、  
領、比、中、山、紙、方、中、山、  
下、野、中、信、書、取、申、書、  
書、文、向、御、入、二、千、八、百、





石守下等水沙扱申上るる方々  
者君臣之道をも相立申親祖文  
之相替の甚云仕申上るる紀沙矣  
見申申申知事の被合点也前  
其矣候被申云申申申通候  
仕申申物を以て後別心申上る  
候方方も申相違申申候事  
底の好の気二と違申上る

一 古

寛永八年二月十日申上る方々  
古川  
右馬少平田好置抄子申上る  
時上野上万事申上る  
候方々申上る  
事申上る  
者被申上る  
候方々申上る  
申上る

武千石と申す中絶の別を成り扱  
君臣の道相立奉ふ仕ゆ所と云は  
智る別心と云ふ補ふ所候は方所  
相違ひ候事と云ふ別心と云ふ事  
之及是候事と云ふ是候事と云ふ  
不仕是と云ふ候事と云ふ御公儀  
と云ふ事と云ふ候事と云ふ事  
候事と云ふ候事と云ふ事  
候事と云ふ候事と云ふ事

之は是非大歎及反心等由是等の中  
達は是と云ふ事

右同

一

物と祖父瀆波と義調等々の祖父は  
名乗る一字を免る後親等々の當  
事の事候事と云ふ事其名乗る  
字を改替式と云ふ事

一

是等と云ふ事如船と云ふ事  
は先規の如き事先年の解

信使事初之初之俄其多舟車之充  
仕晉者第一級二級之右之人陳晉中  
以今私之仕晉自由之儀信之曰之  
遠之事

一 右 同  
八九年平心武十石之入者外秋亦  
然之刻之入之野古豊之  
子之時之女子親也而勢仕隨之威  
同如自之有之不可勢仕吾之當

一 右 同  
其前代友之女子同之  
子之村之私之門分其領之地  
中乃之儀之同  
少者之儀之見堪無信之  
遠之事

一 右 同  
幼幸之清時豊前法儀之儀  
豊之儀之儀之儀之儀  
之儀之儀之儀之儀

之と法多文法紙をふ身心先法  
松世とさ中り一山也信紙山柳紙  
一 之と山先年云園之信使も後沙礼  
中上之判某之信侍紙山をさ其外  
事も法多文之信有紙と指中へ  
符紙作紙の山此の山より七身心少先  
法多文法紙の中指の侍事之紙有は  
山より印紙之宮紙之山中神をさへ

遠之事

右同

一 寛永四年山脈下海邊仕町之山人  
之紙信の表町之山可を其外者  
自中、実之とせ判町人の子をさ其  
紙多の仕山下野古其の外山より時を  
紙下之山葉月古對馬也先中をさ其  
仕山是七う之遠

右同

一 朝鮮海中之裁判其外之山能紙

一 予乃并七在焉の仕立極神古川御令  
中者因之え及きまのりは六仕給道よ  
遠く之の湯飲らるゆゆ中一そそ豊前  
并七在焉の取かぬ中ゆと公家執儀と  
おぬる補ふ好むる之浦控在焉の清川  
内通と中者と佳合仕す多りた中  
一 惣中多上社及友の左等の中元南  
ととて為人の切腹中智のけ段元南

一 此水の上後拙よおぬる別  
右に彼上野及友の致も公儀の一書  
心好知りる御心ゆあゆ中ゆと  
御馬中の御の豊前并七在焉の屋  
中為人と果中の事一そ入遠

一 右同  
朝鮮儀拙の代はる次結集ゆ中野  
中ゆの豊前並七在焉の屋  
拙の祖文親公家ゆ中ゆの儀  
朝鮮

鳴中より下知侍女子を豊前  
下代者大指を茂徳と豊前  
印少室儀能知と侍ありて  
長沖公儀豊前よりありて先年  
波流云々誠放言侍合ふては是  
九つと遠くあり

一 右月

豊前女江戸表に引紙の長指の生園  
と別と紙の八對馬と事と長園之

一 右

侍石次は侍身諸公役并誰人儀に  
若者重なるらぬは指の女と引紙  
對馬と誰人分と長指の長指の  
侍身なるの引紙の中引紙の指の  
侍身なるの引紙の中引紙の指の  
侍身なるの引紙の中引紙の指の  
侍身なるの引紙の中引紙の指の  
侍身なるの引紙の中引紙の指の





初一與夜七海陸交、子武公豐安、全  
別儀、身之身、以補之、信之、抑之  
之、若若、其事、是十一、遠之、

六  
一、元和二年、拓子、口部、系上、信、別

被言、之、古對馬、古、朝鮮、信使  
在、渡、山、信、作、信、系、中、調、山、文、去、坂  
一、親、身、信、使、儀、先、相、延、中、山、信、中  
之、作、信、右、名、子、渡、山、大、坂、為、若、信、天下  
一、鏡、之、山、成、山、乃、先、年、親、對、馬、古、  
之、信、作、信、吳、國、之、信、使、子、渡、山、信、  
之、中、也、山、信、被、按、山、海、山、文、

台德院様より御説の志可然と  
具會上のるに渡沙礼の上の如くと  
作符の如く事と但侍候の申請  
沙渡の上の沙渡の上の如く豊は  
候親祖文諸の文仕来のる如く  
候符の上の如く物の上の如く  
諸の文の作符の上の沙説を請は  
其の旨豊はありの連の如く申  
申の文又追符の上の如く申  
沙の如くの上の如く申の上の如く  
為人柳川殿の如く申の上の如く信  
候の如く申の上の如く又請申  
大徳の上の如く申の上の如く申  
申の上の如く申の上の如く申  
豊の上の如く申の上の如く申  
沙の上の如く申の上の如く申

歩山をくく程々何と沈奉云據六瓶  
子如山後祖文結東山後先世他以所  
入下山を其云結山好中智山好ハ  
豊前中ハ一帝之好別心山以上ハ其  
別紙通山と之能清文と徳君信  
道少茂子相遠一万増之彼奉云中  
中山之主後示を教成之後中を紙  
事新表祖山を紙山好山好山好山結

上ら全送儀の事

○豊前守為之私懇儀方長是山好  
山好山好山好

一七 祖父下野實提可寺流芳院之勘合

船と朝鮮、令中別私中之結内  
ら書契渡山山山儀對列山書同  
中山山と指信是見中事

一 旨

親豊前、朝鮮の事、重名勅令、船を旨  
し、二管領に使船し、とく、大分、子、使、後  
所、証、中、事

一 旨

毎年豊前、渡比、送、使、書、契、し、單、案、を  
指、指、し、親、其、を、内、く、て、仕、替、教、年、渡、比  
事、那、首、元、法、書、仕、来、指、子、よ、り、其、所  
而、重、名、主、太、田、忠、太、事、の、事、外、く、者、り、も  
中、事、と、事

一 旨

當、豊、前、位、友、を、朝鮮、の、中、に、折、良、小  
官、を、初、に、渡、り、し、親、祖、父、嘉、嘉、膳、之、文、に  
友、を、給、ひ、給、と、祈、証、仕、是、も、御、公、儀、を  
備、り、中、渡、其、を、大、分、に、勅、令、船、り、仕  
度、と、事、免、中、事

一 旨

使、船、渡、比、折、良、給、立、名、右、家、を、事、し  
朝鮮、人、の、私、儀、中、也、書、契、し、所、を  
法、の、事

八。寛永元年、朝鮮信使、後、公卿、

宗、作、御、屏、風、所、替、り、者、之、人、數、

、流、芳、院、古、友、平、右、衛、尉、平、山、古、丸、為、之、子、

松、右、馬、之、子、

右、口、人、之、を、双、り、所、替、り、

、河、内、勘、定、又、は、某、田、傳、右、馬、

右、武、人、之、武、双、り、所、替、り、

右、之、者、大、屏、風、所、替、り、之、也、

○方、長、老、胡、鮮、上、京、結、符、宣、慰、使、下、金、

信、の、書、物、實、見、

一九 宣、慰、使、之、御、旨、之、王、の、宣、旨、と、清、本、之、

他、之、の、使、と、所、慰、し、ら、る、之、義、理、之、也、

之、り、公、卿、の、書、よ、あ、ら、う、之、也、

宣、慰、使、之、御、旨、之、王、の、宣、旨、と、清、本、之、

の宣慰使公儀の沙使渡の時  
宣慰使有る所より好むは對馬後  
かも天下の位を給ひ者渡の時に  
むくひよりなりと宣慰使と  
其官人渡の時ハ折慰官と  
官なるは使如くは王の宣旨  
宰相より宰相の使と折  
慰の事すと云義理也大明ハ朝鮮に

勅使有る時ハ朝鮮ハ大明ハ幕下の  
國如くは折むくひは遠東増  
をの是と遠折使と折は我々君  
の使より遠く折訪の使とつ  
と折候とては相遠有るを  
折宣慰使よりハ國王の沙使  
折より折下は折と好むる  
折と折別宣慰使と折と折

中てもあつたりの位にわかれ大に討  
使者に、然人と下し討て宿をいじり

<sup>大</sup>土井大炊頭及ら對馬守公事對決時

自雲津道、多に朝鮮上京の時宣

應使が迎金山浦とらり公儀

使らむとく、いり下る浦十松尾七左衛門

守道春永花もふ書出ぬ也

十一

柳川豊安が朝鮮と送使船儀對馬守

支配結納とて公儀は作身、亦其好

申中上と、亦、是、田、食、と、向、海、舟、渡、渡、り

ふ來、い、れ、れ、記、く

此、供、と、私、宅、に、成、沙、生、い、申、り、

沙、海、を、之、懸、い、目、に、結、と、柳、川、を、

送、使、船、を、及、支、配、つ、と、結、い、る、也

作出山辱且良之申在好山河

胡勿之之良山之好流之  
抄之二百  
九卷判

宋對馬書  
酒井讚波書

宋對馬書

一 卷之...

一 方長老朝鮮上京海軍之

後酒井讚波書

別紙之山狀之

源之朝鮮之山同用山

心可唐之

仕之上京之儀朝鮮

吳儀上京之

卷之申



一 今朝小秋波和暎 深静澄色 由海重碧  
一 日中園 長朝鮮 遠海 之 意 之 長 矣 久  
儀 之 之 者 昔 也 臨 沙 而 中 力 難 云 者  
相 渡 中 之 者 今 之 禮 文 之 何 之 結 者 又  
男 樂 之 上 之 亦 也 有 之 儀 之 之 者 友  
山 内 之 意 之 中 之 意 之 後 一 一 中 之 旨  
や 事 之 中 之 沙 紙 而 之 紙 之 何 之 者 也  
一 之 之 意 之 之 達 一 上 之 之 猶 之 可 也 店  
沙 回 道 之 之 沙 来 勤 之 意 之 山 内 之 之  
事 之 之 好 之 之 意 之 之 之 儀 之 之 之 之

八月廿九日

出務之判

酒井讀法寺

宗對馬寺

沙館

一 卷之三十一  
一 卷之三十二  
一 卷之三十三

一 柳川豊前千石、知行伊系列判十畝、  
大河内金兼友、知行伊系列判十畝、  
通名、

賞

肥前園茶肆、

千石

菅野村、

右、千石、中多上野、及柳川豊前、  
知行伊系列判十畝、知行伊系列判十畝、  
知行伊系列判十畝、知行伊系列判十畝、  
知行伊系列判十畝、知行伊系列判十畝、

寛永十二年、

卯月十日

宗對馬守

伊系列判十畝、

大河内金兼友

一 義智様より下野守、知行伊系列判十畝、

知行伊系列判十畝、知行伊系列判十畝、  
知行伊系列判十畝、知行伊系列判十畝、  
知行伊系列判十畝、知行伊系列判十畝、

かゝるの事いふに内廷御意の又々時の  
使者は人浦権左衛門ありとせりとも  
七右衛門の江戸御所へ同日に  
城下せり元きて又中へ嚴様所  
に義沙意に通して先き好む物  
あはれとせりかんとせりはるる  
せりこりありかるとせりはるる  
事案同す而自は合之及是非の

一 旨

けしにいふ事御意治事とせり

鴻川内通父子の儀是又沙意の旨

内通前ハ吉田七右衛門中守とせり

之ゆゑ方ハ振興集徳政十高右衛門

之りのやうに才ある所ハ徳久新中

勝田久兼左衛門中守とせり

何れも同前ハ徳合中守

一 旨

松尾七右衛門の男子二人とせり  
徳久傳次中守





中の中の中

一

豊前抄子田守居る者の中

作る屋敷補との相渡の中

妹の中は二四ヶ年豊前抄子

有る對馬抄子との對面

中の中の中抄子田守居

る者の中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

る中の中抄子田守居

其之也。然子能之。離別。結。後。物。子。自  
曰。古。居。之。者。中。能。之。心。書。之。然。之。自。心  
委。曲。後。者。有。事。上。之。系。本。中。之。能。詳。以  
之。能。詳。之。

七月晦日

酒井讚列極

一書。波。破。也。之。之。度。及。柳。川。豐。安。也。方。之  
子。之。極。子。能。之。離。別。結。後。物。子。能  
曰。古。居。之。者。中。能。之。心。書。之。然。之。自。心  
委。曲。後。者。有。事。上。之。系。本。中。之。能。詳。以  
之。能。詳。之。

壬七月二日

使古川右馬助

土井大炊政秋

古。欲。以。秋。之。情。古。日。之。古。之。書。之。之。  
書。狀。相。傳。也。之。

此。古。之。之。書。波。破。詳。見。也。然。之。今。有

柳川豊前之好子并内儀才  
江戸去後山屋浦迄之御送山通之  
水屋山何方面之旨之御清言山  
子能書山之御読之

壬七月朔日

酒井讚波書

宋對馬吉和 言報

右之御事 寫

寛永十三年上月廿二日於對列

豊前按友大之御事御清書

作出之條

<sup>上</sup>豊前奉教奉全不義之徒對和

按察割 殿様之肩をもめつて

仕仕得片天下道この御治之り

よりて之を御取之りて之を御取



却ら申を濟公儀に証くこく申  
よてを朝鮮に儀守殿様沙等調法  
有く申中よての能又示成 濟公  
其地法に申すに等々自古其の時  
日本朝鮮に為各名朝鮮石扱に儀  
守殿様儀多儀守殿様殿様等法  
誤通に同石分由をも沙安法儀奉  
如申すに儀守殿様下沙明白世い

すいの御代に申すに儀守殿様  
守思とに申すに儀守殿様  
す道に申すに儀守殿様  
一て矣見ふ儀守殿様  
法に限と申すに儀守殿様  
此等數を儀守殿様  
沙譜代に者とに申すに儀守殿様  
此國を去るに儀守殿様

役仕の左沙園の事ありとあり一は二は  
契約と云ふるは其の儀を以て  
新なるる向後之儀を随ふ法也  
とて仕の自然ありと云ふは  
豊前の通用の儀も有りと又ハ何  
もせず作法之者其の旨を  
の事作旨の事又中上心慮有  
之神了戸令理好は抱る後  
旨と可好作也

謹言と

一 寛永六年己未歲方長老を朝鮮の  
名後都の通也と 御公儀を  
謀書仕上る由柳川豊前守  
中上作事

一 <sup>十七</sup> 朝鮮上京之事 新儀の事あり

天正十九年の歲末に、（一） 悦抄語、毎  
年渡り使へ者、皆々、却（二）、（三）、（四）  
其例、方長乞、上京、（五）、（六）  
方長乞、（七）、（八）、（九）、（一〇）

寛永四年の歲、（一）、（二）、（三）、（四）、（五）  
合戦、（六）、（七）、（八）、（九）、（一〇）  
御加勢、儀、抄語、（一一）、（一二）、（一三）、（一四）  
此法、（一五）、（一六）、（一七）、（一八）、（一九）

談、（一）、（二）、（三）、（四）、（五）  
若、（六）、（七）、（八）、（九）、（一〇）  
儀、（一一）、（一二）、（一三）、（一四）、（一五）  
取、（一六）、（一七）、（一八）、（一九）

胡、（一）、（二）、（三）、（四）、（五）  
取、（六）、（七）、（八）、（九）、（一〇）  
乱、（一一）、（一二）、（一三）、（一四）、（一五）  
上、（一六）、（一七）、（一八）、（一九）

傳地之儀自然 所尋茂少所之民  
言上由中少也

一 右白

今度土京之儀中調子之儀物等每年

差儀比使如前之都之如通之儀之

入之由中國之儀成之旨之限事之

也之儀之

一 右白

儀物等之儀物等之儀物等之儀物等

中國之儀物等之儀物等之儀物等

一 右白

東萊金山浦之儀物等之儀物等

三年宛替中之儀物等之儀物等

儀物等之儀物等之儀物等之儀物等

十年禮子等之儀物等之儀物等

右之儀物等之儀物等之儀物等

使之儀物等之儀物等之儀物等

之儀物等之儀物等之儀物等

一 右白

進貢儒者樂人名僧儀先例有

一 百 試之由方長乞中  
試之由中同以御  
儀留之在儀之  
方長先從朝鮮海國之時  
謀書之由豐前方上  
朝鮮禮曹之延解之方長乞  
御之見之御事之及是  
之別方長乞下上

豐前方之從崔判之示力  
是出中之事

一 百 崔判之紙面之從  
御之儀之方長乞  
朝鮮之紙面之從  
御之儀之方長乞  
種之樣之紙書我儀物  
去之馬獲之者御之  
紙之胡解之章之樣之  
者沙穿數之刻之

豐前方之從崔判之示力  
是出中之事

一 百 崔判之紙面之從  
御之儀之方長乞  
朝鮮之紙面之從  
御之儀之方長乞  
種之樣之紙書我儀物  
去之馬獲之者御之  
紙之胡解之章之樣之  
者沙穿數之刻之

一 百 崔判之紙面之從  
御之儀之方長乞  
朝鮮之紙面之從  
御之儀之方長乞  
種之樣之紙書我儀物  
去之馬獲之者御之  
紙之胡解之章之樣之  
者沙穿數之刻之

方長寺儀清中侍町人百姓と波裁判  
山由豊中寺中立のり

一音

批候茂た私にてせしむる山方長寺儀ハ先  
師とせし言符御解書簡儀頼の之  
細由共るのり言符の並山書簡の外  
何のりせしも所扱とせしりすは是れ其  
事と豊前寺中符並るのり  
事とせしも其の若き所は波指のり

扱候とせしも僧侶に役所國相替中  
儀守山所座山近年豊前四里とせし  
中に出山候共は儀所着せしは  
之に仕立承取旨の事方長寺法  
仕の中今豊前寺古詞とたし中上  
のり

寛永九年信使に渡り札中上作別  
書簡に替りし由共るのり

一 <sup>右</sup>

書籍仕立の中は物も曾もいふ事も非  
豊前祖文の事 所公儀の物  
朝鮮表の儀中曾もいふ事も非  
朝鮮礼儀和睦の儀古對馬守、  
作舟の時使者祖文親、中曾沙和後  
中朝信使の儀中其儀後朝鮮も  
いと曾祖文の事も豊前も朝鮮の  
友位仕立の物も信使の事も向備

一 <sup>右</sup>

豊前方門仕立の使者の事も細  
仕立の中は儀の物も改更の  
右の信使の時 所進物差儀中  
波進上の事も豊前の方中  
左の儀物の中は信使出仕  
沙進物の中は豊前内松尾七  
儀文の事も豊前内松尾七  
中曾の事も豊前内松尾七

一 右  
中中書

豊州の対馬守大切儀を修左  
兵衛中納言の儀に左納言の

中中書

一 右  
物子の儀者兵衛中納言儀の

取事に儀者中納言儀意答母音

事より儀者大納言と取

け四年先より朝鮮の使節を渡

代友を並万事指川仕儀之

事兵衛中納言の儀に

中納言の儀に朝鮮の儀に

者但仕儀の朝鮮表之事物

見中納言の儀に

去歲豊前中納言の儀に

中納言の儀に押田重儀の

儀を仕儀の儀に



一 有

徳七右馬のさ田立戸山儀の豊さ戸有る  
代古所一兼用兼之海故ら其の兼用  
若延必兼比子細の祖父親等、知り可  
杖とも定戸子年、去る、雨替結  
様と古對馬さ戸有る豊さ戸有る  
初之禮、左様之仕君の死之後、拙さ  
中戸さ戸力同く、字さ戸と戸山村さ戸  
分古所有る祖父親く、く、に其さ戸

兼用仕の得、中戸有る仕の取、さ  
中戸有るさ戸山儀の

一 有

拙子切少、時、さ戸と、徳七右馬の非道  
く、可相さ戸之、左、右、儀とも相尋、為  
さ戸押、田、立、戸、山、儀

一 有

四年先徳七右馬の豊さ戸有る流芳院の  
波自害と仕のを其、君合、者押、田  
立、山、中、拙、子、山、立、戸、有、る、者、大、水、村、七、右、馬、の、

一 方事 教率 其方 相尋 儀度  
有之 中連 中 政書 中 中  
符 勿 後 傳者 立 小 小 小 小 小 小  
全 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
一 聖 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
と 難 道 一 好 中 中 中 中 中 中 中 中

右之 執 去 歲 之 政 言 之 中 中 中 中 中 中 中 中  
御 穿 鑿 立 一 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
執 槍 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
政 書 哉 奉 揖 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
祖 父 山 來 括 子 同 中 中 中 中 中 中 中 中  
重 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
但 重 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
判 儀 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
第 事 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

少の時ありしは、物子を押し除け物言をも  
棄れ下す可好むを又、御當り方  
車に涉り道清の白き、作付の有心  
清威光のけしきをも被安堵の言は彼  
豊安若輩の時を、因り者大豊安方  
物子の様は、往之衝く、全隨言物子の  
肩背をも並様注り、被我儀に候  
對候と神化を自園に、先少月と候

右通年、少く、此味に中、心を豊安  
又、因り者も、物言をも、向後如あり  
私儀に成る、神に被安堵候、物言  
も、あつと、川除り中、心を、全隨言  
中山系、如何様、後、の、中、心を、好む、山、望  
彼者事、御前、の、後、物言、出、候、者、候、  
作、る、私、に、中、心を、儀、如何、と、好む、物言、と、  
言、と、少、月、神、も、下、其、候、御、從、り、有

沙執権中の中上の交は海者能沙尋  
其男の存在を好ありし不慮に虚言を  
作中上の儀おかし智く言はれ給ひ  
其誤有深し其交と云ふ事  
其関名分は下の様にお  
御前沙梅為奉頼の事

寛永十二年二月廿五日

寛永十四年日記有之の書後

寛永十四年江戸系勤之時

一 九月廿一日道中余名一宿之島柳川

宿之島在馬の島者中上の女百  
以方の進上仕奉らるる事  
道中の中上の女百の豊  
羊の以方羊十と云ふ事  
大馬中極田の事

一 右江戶地方宿寺、新安寺、同十月廿一日

夜より時々、花房方太馬、仲夜、沙出、此後、沙出、  
柳川豊安、沙出、中入、此後、中頼、中頼、  
此出、此余、儀、ハ、多、種、ト、中、隨、沙、出、意、ハ、  
武、千、石、ト、知、リ、ト、亦、ハ、此、九、年、前、嘗、テ、  
亦、モ、ウ、次、目、ト、清、重、平、ト、儀、ト、上、置、ル、  
是、ト、亦、ハ、一、紙、沙、録、免、ト、今、文、ト、ト、並、ト、此、後、  
我、盜、人、ト、亦、成、ト、此、ト、何、時、ト、此、ト、理、テ、

上、ト、中、ト、此、ト、儀、ハ、拙、ト、理、テ、ト、ト、此、後、  
一 此、後、ト、此、ト、此、ト、中、沙、見、ト、此、ト、此、ト、此、  
大、同、様、其、後、家、康、公、ト、時、沙、當、試、ト、  
是、ト、亦、ト、此、ト、亦、ト、此、ト、載、仕、ト、ト、ト、文、九、  
千、石、ト、此、ト、沙、録、ト、此、ト、此、ト、此、ト、此、ト、  
千、石、ト、此、ト、豊、安、ト、此、ト、押、付、ト、此、ト、ト、ト、此、ト、  
万、石、ト、同、千、石、ト、當、豊、安、ト、祖、父、ト、此、ト、  
我、父、義、智、ト、此、ト、九、ト、知、リ、ト、ト、ト、此、後、千、

一石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ  
石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ  
石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ  
石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ

一

同廿七日揚上後柳川豊安所カ統  
之花房右馬中及音貞為人カ雇中

一石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ  
石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ  
石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ  
石儀ハ二千八百石沙加増ノ時中多  
上野及後沙加増ノ時中多ノ儀ハ

多下なる、彼其通の比中、急不  
中其ハ成沙看先母相遠、何處  
信有之、正、往、多、り、と、の、中、太、公、每、人  
中、考、は、極、く、若、光、の、比、後、太、公、通  
急、不、如、西、好、く、を、昔、の、分、中、多、浦、の  
中、中、花、房、太、馬、中、反、言、久、上、樂、中、河、の  
古、川、太、馬、中、平、田、好、監、他、後、七、元、大、浦  
極、大、妻、の、柳、川、瀬、集、い、た、た、お、き、取、之、に

右月  
一

同廿八日、昔、貞、國、師、の、沙、出、る、時、の、  
沙、院、言、中、身、對、列、沙、合、急、の、  
正、將、國、師、様、曲、是、を、と、名、連、對、馬、者、  
の、出、ら、れ、沙、下、の、極、く、昔、の、時、國、師、  
の、信、の、ハ、極、く、通、る、久、上、昔、貞、事、ハ、  
十、八、日、の、六、つ、ハ、曲、是、を、貞、貞、願、四、つ、を、  
對、馬、者、反、と、同、ぶ、る、子、月、之、の、對、列、  
の、極、く、曲、是、の、中、に、を、取、之、の、對、列、





七右妻の言葉の中督の千る可く  
流上りての世々の山義智様と下野の  
此の所の知りてするに道は清く  
地は中流の所ありては  
好く通る中の中督の心と

○柳川豊安の送文船の中并衣冠

山間庭流芳院の中朝鮮に道は  
使者の所坊地集の波海に  
若く右に流津を津に  
此の所は不沙尋も中  
いと書は相渡る中

一丸

對馬守書籍と文神先例と少く相  
替りて別儀法を對馬守

中渡少々相済みし自然成尋々  
一<sup>大</sup> 況胡辭日中 上様との事との度  
書翰より大君との好みの若くは式  
以位より式前より取らねばしよ  
と申す時

大君様儀の旨より申す所の  
儀いふことも拙より好む況胡辭

日中し済む事未沙知より申す

上様を大君と對馬守書哉と其  
通りよの有りよの對馬守儀りん  
の旨より書翰より使ひ申す  
之儀書遠らりて申す事  
中の好むを國より申す  
豊前中途より對馬守名好む  
儀多々付書簡より後より  
後前よりとの度と對馬守別る

儀の始をわたりては、  
其の儀は、  
儀の始をわたりては、

一 <sup>右</sup> 儀の始をわたりては、  
儀の始をわたりては、

前々年号書符儀對馬書符をわたりては、  
儀の始をわたりては、  
其の儀は、  
天子の儀をわたりては、

年号も其の通り、  
書符の儀をわたりては、  
對馬書符通用、  
道に遠くは、

一 <sup>右</sup> 是も先例の相違、  
先例の儀をわたりては、  
前々書符をわたりては、  
年号の儀をわたりては、

吳國之友信之而下之使使有之  
補事之由從中書簡之執照勤  
結備之對馬寺也心持之有之也  
事之由國之見合入之也  
右之通リト少事母之儀被合也之  
通簡入意中少騎獲之者子後也別  
於空對馬寺同知判事之有朝鮮  
之好母之調法之候極之申之儀也

自朝鮮之くとも申之候申之申之  
之候朝鮮之同知判事之申之申之  
申之申之朝鮮之何之申之申之申之  
私之申之候然也申之申之申之申之  
左儀之儀之有從朝鮮之申之申之申之  
對馬寺之申之申之申之申之申之  
相之申之申之申之申之申之申之  
通之申之申之申之申之申之申之儀

只今對馬守無補之故也亦以朝鮮  
公使とも亦同神と取及也

石月

一 騎獲之者海國別境江戸對馬守  
籍者り、又同判事行くと  
や、少少と事、流るる  
沙尋る

同判事申上り、如籍之文之前  
相違儀と申し、各々、每人

在、申上り、使者の、力念  
か、申上り、流るる儀、

口、申上り、別儀、申上り、  
朝鮮部、同判事、申上り、

御威光、申上り、明白、流るる  
事、申上り、朝鮮、被、安、

申上り

一 有

前、高、渡、信、使、元、判、事、

朝鮮より今度何れを以て相尋るるを  
よと自然に法尋るる

一 朝鮮人口通一は者多きを以て  
其上より程々儀別る日本を法尋る  
世のよ極る所や一の儀よりかして  
ぬ法を以て左何れ法を尋る  
之と我儀金山浦より一の送品  
又ハ朝鮮を以て金山浦より

一 法を以て左何れ法を尋る  
てよいよんよ何れより事

一 都てよいよんよ何れより事  
あはしり

一 豊安の方長を以て法を尋る  
法尋る

右に出入る所を以て法を尋る者并同知  
委見所を以て別る相尋儀を尋る

の岸の唯此の山は天下の一人の  
歌を仰ぐ新よ、若者如者もまゝの  
甘き山の對馬寺高松柳川とて、  
其國とて好むは、彼は白人を  
いふと好む別座言を、  
いふは、儀尤も、  
其の山は、  
儀と好む

右同

一 佐倉の朝鮮の渡海の時、例に送文船の  
渡り、

去年の癸亥の者、  
例に送使船金山浦、  
其使金山浦の氷、  
我亦、  
とて、  
とて、

右同

去年悦津寺沖の牧平朝鮮の  
書籍を交し一夜一往の事あり對馬書相計  
知るとは治下の友得と有信と云は  
るに及ては簡便なりと云ふ事  
有批旨言と有後信史儀中渡の  
不中儀の由は史を請居る由は信史  
之儀相延の事早速中渡の  
一信使之儀中渡の史ありあり

右同

頃風次第、波海海の

右同

右之使、何事者船の送史船と  
若し多事と多田源志の事者飛船  
相渡の由中事あり

右同

日光湯社来の時あり 朝鮮信史

儀中事一節、浪子と云ふの儀来  
形六日もあり中事又ハ都る事と  
日教とあり中事難知の何と三月の



末、此の事、集りて、卯月十日、  
沙社集、江戸沙社集、  
用、  
如、  
日、

一 旨

朝鮮信使、  
公、  
之、  
上、  
事、

一 旨

今、  
者、  
沙、  
之、  
事、  
對、  
馬、  
之、  
事、  
也、

一 旨

朝鮮、  
之、  
事、  
也、  
上、  
事、

一 右目 豊安道使に小幣多る  
 一 右目 豊安道に正法者江戸表に  
 儀を申紙の事たるは立及は  
 下り下事

柳川調貞公事記録下終

寛永十三年丙子信使來聘の時 公儀  
 沙尾梅并御執持方公也 梅羅山文集  
 有レ少書字也 但柳川一儀レ以レ是  
 中レ有レ

復朝鮮國王

日本國源 御諱 奉復

朝鮮國王 殿下

聘价遠馳禮意益敬見

書就審度

我治平贈其物產依數領之懇歎深切慰悅殊甚  
妄聽義成調與相訟則有偽造

儀歸書印者革正糾察焉

貴國早聞知而今改往自新至此誠可也文道有

義不渝舊約則彼此之好也有小信物附

使价還如別幅

檢領餘葉

亮察不宣

寬永十三年十二月二十七日

賈永十三

日本國源平御諱 御朱印

此與教書高低平頭如本書之式先是朝

鮮來貢數回隨足利家之舊例使禪林之

徒裁返簡今般先生預此事又舊例遣

朝鮮書唯記干支今般初記年號

答朝鮮國禮曹

日本國臣掃部頭藤原直孝敬答

朝鮮國禮曹參判朴公閣下

一封手帖千里面譚幸幸茲  
三官使遠至捧齋  
國書賀我源大君繼前緒致太平兼獻許多奇  
產如別幅既奏達之其修聘禮悖舊好休哉抑去  
歲義成調與相懇時察有造質書者糾決焉是行  
也殿下改往自新可嘉獎矣故以本邦所出  
見投贈之到宜啓稟且如余拜佳貺感謝之至也  
因呈薄物以表寸心統希領收餘事勸官使  
還維時初寒頌序自留不宣  
寬永十三年十二月二十七日

今般禮曹贈書并土宜於直孝及土宜大  
炊頭利勝酒井讚岐守忠勝共稱日本國  
執政故利勝忠勝返簡別幅與直孝同

日本國臣伊豆守源信綱敬答

朝鮮國禮曹參判朴公閣下

一封手帖千里面譚幸幸茲  
三官使遠至捧齋  
國書賀我源大君繼前緒致太平兼獻許多奇  
產如別幅既奏達之其修聘禮悖舊好休哉抑去

歲義成調興相懇時察有造贗書者紕決焉是行也  
殿下改往自新可嘉獎矣故以本邦所出見投贈之  
到垣啓稟況如余拜往貺半感謝之至也因呈薄物以表寸心  
統希領收且所請生口先是皆刷還之今無遺焉縱纔存者為子為孫無  
欲還者若或願還者須待他年餘事勒官使還維時初寒煩序  
自齋不宣  
寬永十三年十二月二十七日  
今般禮曹贈書并土宜於信網及阿部豐

寬永十三年十一月十日  
後守忠秋堀田加賀守正盛共稱日本國奉行故忠秋正盛返簡別幅與信網同  
執政奉行返簡亦蒙台命所作也九亦通今載其上首返簡於此

九亦通今載其上首返簡於此  
執政奉行返簡亦蒙台命所作也九亦通今載其上首返簡於此

歲義成調與相思時察有遺書者此決為死  
也。殿下改往自稱可嘉獎矣故以本  
見投贈之到道啓稟況如余拜往就平  
也因呈薄物以表寸心既希  
先是皆別還之今無遺焉縱  
欲還者盡奉燒其半願  
維時初釋地奉許奉簡未竟  
寬永十奉前姑志外五蓋五簡  
并我德勝縣國師寶在

寬永十二亥子三月十日御執指去丹

大炊頭飯酒井瀨波守及松平伊豆守

御連署之由柳川豊前并松尾七右衛門

拾九年以方口左出由抄云方之由書

為之由之由紙面之由則中書二通

差上之由右御連署并豊前七右衛門

抄云旨之由方口記之

起清文之事

一 今度公儀之心奉云并清中朝群  
下知成之儀有の拙子若輩存志にて  
去人志也く中上はなれあこまりおち  
おや沙事云結合しあよる業其こいよ  
下知中上とさぬさる京師あ人志  
さひくは信り、ゆたかきく去人かく  
中上はなれ清しくりさぬちあ  
多成作かきむりいなる赤のあまのさ  
仕ゆこれまのちほくためよお成の

一 御奉云少も別儀おまう  
一 殿極も沙心中はに河一考一儀法  
有る時ハ口つこまうくは信事さ拙子  
男上母と調法之儀もいけんさうけ  
沙奉云て中上は拙子と中はなれ  
事た少もつこえさ中はひらう  
と名せ別儀もつこえさ中はひらう

一 下下

一 物も上たれてさく下へ今もたれく

ト大心くさくさくさくさくさくさくさくさく

さや

右へ旨とりさりよたいてハ貝中おま

一 神くかゝる苗清うら神八海大舟

法とあさおらむりさく山ゆ能清系傳

元和三年四月十日 法月 柳川玄書院

宗對馬守 魚判

宗 瀨法書院

平田左京少輔

能清文

今度 敬儀の清中ゆり地へ儀柳川

玄書院の御書比いりくゆ人やく

宗上へおたせりくあゝあゝあゝあゝ





右の首末桐遠いはらりたいてと  
の象日本國中人の神祇上の人  
てん人たやくてん人たてのた  
てん人たてのたてん人たてのた  
當春日大明神熊野てん人たて  
神法佛の符と也の何の件  
元和三年五月日 松尾七右衛門  
平田右衛門

智保

御連署を記す

の

柳川をのち 松尾七右衛門  
十九のいあを承事とて  
抄之旨に申書つてい久  
上てぬとてはし二條に

松平伊豆守

三月十日

任保判

酒井讚波書

右結判

土井大炊頭

右結判

宗對馬守

一貞享元甲子年十月朔日柳川豊前守津經

病死結中津經越中守方

公儀 口多<sub>レ</sub>沙<sub>レ</sub>東<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>十月十八日内回<sub>レ</sub>津經

方<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>御城手紙<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>

一 此<sub>レ</sub>より致<sub>レ</sub>病<sub>レ</sub>死<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>旨<sub>レ</sub> 公儀<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>津<sub>レ</sub>檢<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>治

方<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>目<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>并<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>旨<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>津<sub>レ</sub>并<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>旨<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>

右<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>令<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>指<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>亮<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>旨<sub>レ</sub> 同<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>十月<sub>レ</sub>廿<sub>レ</sub>日

津<sub>レ</sub>經<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>旨<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>紙<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>旨<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>津<sub>レ</sub>加<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>

御城手紙<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>

Handwritten text on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The characters are in cursive script and are difficult to decipher due to fading and ink bleed-through. Some legible fragments include "一", "二", "三", "四", "五", "六", "七", "八", "九", "十", "十一", "十二", "十三", "十四", "十五", "十六", "十七", "十八", "十九", "二十".

義成據神代寬永十一甲戌年家

方長也七右志木 大猷院據

方長也七右志木 大猷院據

方長也七右志木 大猷院據

方長也七右志木 大猷院據

方長也七右志木 大猷院據

方長也七右志木 大猷院據

方長也七右志木 大猷院據

天和二癸亥年七月七日 正義具識之

自寬永十一年至二十五年和三年五拾年也

西... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

... 州... 州... 州... 州... 州...

